

# 丹波



創設120周年記念  
関西丹波市郷友会会報  
第4号 2019.11.1

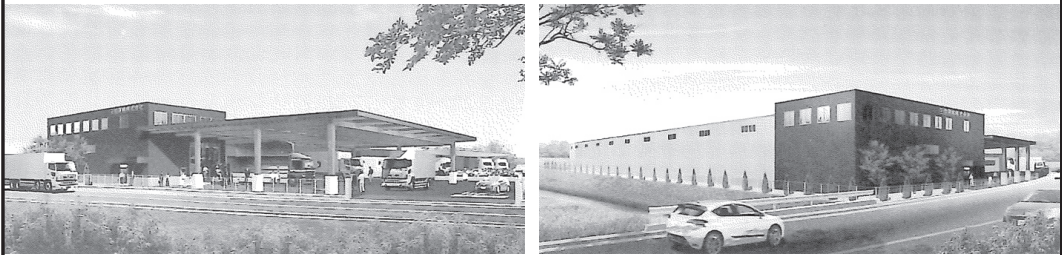
# 三協運輸 株式会社

本店住所 埼玉県桶川市坂田字向 990-1

創立 30 周年を迎え、お陰様でつつがなく発展しております。

東海道を中心に大型トラック約 200 輛  
最新鋭設備を備えた物流センター及び倉庫約 12,000 坪  
を軸に毎日フル稼働の体制で活動してまいります。

〔安全・安心・朗らか〕を旗印にご期待に応えて参ります。



本店 社屋（敷地面積 4,000 坪、建物面積 2,000 坪）平成 23 年 10 月 1 日完成



関東発一関西行の風景

出発直前の大型トラック部隊  
毎日 200 台の車輛群が東海道を  
中心に走っております。

〔主要取引先〕 順不同

ダイキン工業(株) キリンビール(株) 味の素(株) ハウス食品(株)

キューピー(株) アサヒビール(株) 帝人(株) 三菱商事(株) 日立化成(株)

三井化学(株) 横浜ゴム(株) (株)東芝

# 三協運輸 株式会社

代表取締役会長 岸本勲（氷上町出身）

本店 埼玉県桶川市坂田字向 990-1 TEL.048(728)9380

E-mail:sankyounyu\_saitama@h6.dion.ne.jp

本店配車センター 埼玉県桶川市坂田字向 990-1 TEL.048(729)0466

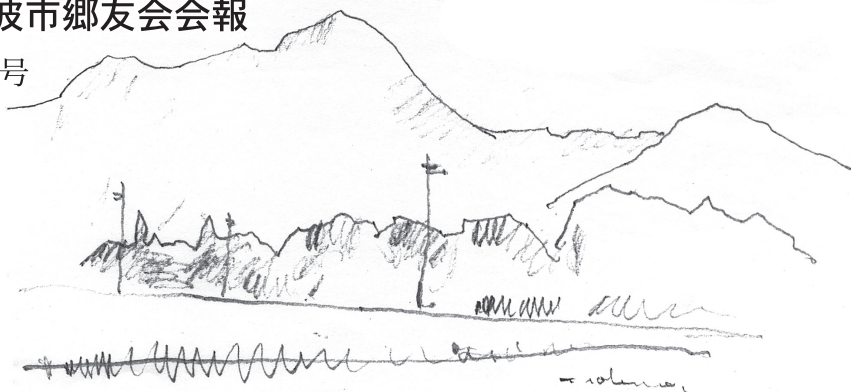
物流倉庫所在地 東京・埼玉・神奈川・名古屋・大阪



# たなほ

創設120周年記念  
関西丹波市郷友会会報

第4号



**目 次**

子供の夢育てる環境作り	有田秀雄	3
120周年へ決意込め 第108回総会		4
平成30年度の支援事業 中学生からの謝辞		8
120周年記念 すくすく大賞募集事業		9
戦前期の会報をひもとく	小田晋作	10
丹波と私 「自然との共生」刻み込む	岩槻邦男	16
丹波と私 “ふらふら” “ほどほどに”	柳田敏雄	19
丹波と私 異国にいてこそ感じる	高岡正人	22
SDGs経営の神髄	江上剛	26
雨蛙もトンボも見えない	河合雅雄	29
男性不妊研究の最前線	畑 豊	31
新病院、順調なスタート	足立智和	33
阪鶴―福知山線に結んだ夢	芦田敬一	35
「丹波布」受け継いだ使命	イラズムス千尋	38
犬童球溪「旅愁」の歌碑を建立	赤松暉久	41

「柏原」が「柏原」になった謎	岸名経夫	45
植野氏の思い込めた美術館	清水昭景	48
「植野美術館」市立移行の頃	細見滋樹	51
農業教育はおもしろい	岡田邦夫	54
60歳過ぎ独学で始めた油彩画	田村英夫	56
ウィーン楽友協会で第九演奏	足立さつき	59
古希少年、ネパールの山に挑む	岡田博美	62
遠いようで近いトルコと日本	安田ゆかり	66
風呂にカルチャーショック	Jovald Henriksen	69
藩主をしのぶ織田まつり	足立壽宏	72
編集後記		74
広告目次		75

表紙 織田まつり

題字 (表紙・中扉)	荻野丹雪
写真 (表紙ほか)	足立壽宏
カット (中扉ほか)	奥野隆之

# 子供の夢育てる環境作り

関西丹波市郷友会 会長 有田 秀雄

嘗て東の帝国ホテル、西の甲子園ホテルと謳われた武庫川女子大学甲子園会館

で、第108回の総会が11月の暖かい麗らかな日に開催された。私の永年の夢が叶った日である。ただ単に甲子園会館がライト様式の名建築として保存されているだけでなく、今も大学の建築学科として教育の場に使われているからである。



関係者に心より感謝申し上げます。

さて、体と心を動かす脳は3歳までに約80%完成すると言われます。その為にも医学の充実が大切ですが、それと共に教育をコンセプトとする時代になっていきます。人間形成の基本は幼児教育から始まります。関西丹波市郷友会創立120周年記念支援事業「丹波すくすく大賞―輝こう丹波っ子」の対象に小中高校生のみならず園児を加えたのもその為です。現在、教師が忙し過ぎて生徒と向き合う時間が少ないと聞きますが、子供の自由な個性を存分に発揮する為にも問題点を発見し、解決する力を付けさせる事が新たなイノベーションを生む源泉となる。これから増々ロボットと協働する社

会になる。その為にもAI（人工知能）の基礎となる数学、工学そして文書の読解力を高めることが重要である。

一方、教える側の教師のレベル向上も大切です。そして、誰とでも会話を通じて意思疎通ができる「コミュニケーション力」、グループの先頭に立ってチームを動かす「リーダーシップ力」、誰もが人格と個性を尊重し、支え合う共生社会の確立が必要です。少子高齢化社会にとって予防医学の発達は健康寿命を延伸し、社会参加は社会に活力を与えます。

そして、子供と大人のコミュニケーションの場として図書館等の活用も大事です。それから子供たちが大地に力強く根ざし、いつも夢を持ち続け、また、若者たちが安心して子育てができる環境作りを切望致します。本会も現状維持ではなく、チャレンジ精神を忘れず、会員相互の一層の親睦を計り、丹波市と共に新たに挑戦する分野を発想し発展を目指します。



# 120周年へ決意込め

## 第108回 関西丹波市郷友会総会



武庫川女子大甲子園会館での記念写真（撮影＝監事 足立壽宏）

第108回総会は、平成30年11月11日（日）、武庫川女子大学甲子園会館で行われました。黒井出身で阪神電車の幹部の三崎省三の立案になる甲子園球場を含む一大リゾート地のなかに甲子園ホテルは建設されました。戦後、青垣町出身の公江喜市郎の創設になる武庫川女子大学が譲り受け、甲子園会館としてライト様式の名建築は保存されるとともに、大学の建築学科に使用されています。また昨年放映された朝のドラマ「まんぷく」では、大阪の有名ホテルとしてドラマで使用され、注目を集めました。今回、公江茂様の御尽力により、本会の総会を開くことができました。総会に先立ち、会館の見学会が催されました。

総会は、有田会長の挨拶より始まりました。本年の大きなニュースに京都大学の本庶佑先生のノーベル生理・医学賞の受賞があります。先生の言葉の「疑う事の大切さ」を紹介され、また来年の12

0周年の取り組みへの決意を示されました。

来賓の谷口進一丹波市長よりのご挨拶がありました。東京の文京区の春日通りには春日の局の菩提寺である麟祥院があり、その縁での文京区との提携に期待を示されました。そして、就任2年になるご自身の評価を通して後半2年の決意を示されました。

足立壽宏監事より、会計監査が報告され承認されました。本会の会計は一般会計のほか、先人が苦勞されて、支援事業のためにストックされた賛助金会計があります。以前は、支援事業は賛助金の利子で運営可能でしたが、低金利状況になってからは、とり崩し状態であると説明されました。

次に、支援中の丹波市中学校体育連盟の新人体育大会の優勝旗の贈呈です。大会出場のために剣道の優勝旗授与式のみでした。欠席の卓球部主将のお礼の手紙

を、八木則久連盟会長が代読されました。今回で、丹波市体育連盟への一連の優勝旗支援事業は終了です。また、従来より支援している丹波市少年少女合唱団による合唱は、「翼をください」と懐かしいわらべ歌でした。

2019年は創設120周年です。120周年事業準備委員長の公江茂常任理事より、会員皆様の意見をどしどし取り入れて、意義のある120周年総会を行なうとの決意を述べられました。

総会終了後に会館をバックにした記念撮影を足立監事の撮影で行われました。

午後の懇親会は来賓の太田喜一郎丹波市議会議長の乾杯の発声で始まり、ました。宴もたけなわ、スペシャルゲストの足立知謙様のピアノ演奏。足立様は、青垣町小倉出身のジャズピアニスト、作曲家です。特に有名なものは、スバル自動車のコマーシャルです。演奏曲目は「情熱大陸」、ご自身の作曲になる「丹波市

音頭」と「A列車で行こう」の3曲です。華麗なアレンジの効いた演奏を披露されました。

会報編集委員長の山口直樹常任理事から、今回の目玉のひとつである、笹倉鉄平様の素晴らしいカラー絵画の会報と、会報執筆者で招待者の足立幸信様、上田信也様、荻田美代様が紹介されました。今回初参加の7人の会員の紹介もありました。

次に、甲子園会館館長代理の市栄正樹様より、甲子園会館の歴史の一部をお話いただきました。甲子園ホテルで阪神タイガースの六甲おろしが始めて披露されたのですが、この話は東京では全く受けないとお話です。市栄様には今回の総会開催には大変お世話になり、ありがとうございました。

(記 芦田敬一)

## 6、7ページに会場風景





重厚な内装の武庫川女子大甲子園会館の会場



総会に先立って行なわれた見学会

撮影 常任理事 野村忠利





有田会長（左）から中学体育連盟の八木則久会長（右）と  
畑頼樹（らいじゅ）君（春日中剣道部）に優勝旗贈呈



あいさつする有田会長



少年少女合唱団の熱演



足立知謙さんがピアノ演奏



うらかな日射しの下で（甲子園会館の庭園）

## 平成30年度の支援事業

丹波市中学校体育連盟に新人戦の優勝旗4旗を贈呈

十一月十一日開催の第一〇八回関西丹波市郷友会総会にて

内訳

- ① 剣道競技 男子の部
- ② 同 女子の部
- ③ 卓球競技 男子の部
- ④ 同 女子の部

これもちまして三年間にわたる新人戦の優勝旗十六旗の贈呈は完了いたしました

丹波市少年少女合唱団の定期演奏会に祝儀を贈呈

八月十八日開催の第四十二回定期演奏会にて

(記 足立敏)

## 中学生からの謝辞

この度は丹波市中学校新人大会卓球競技の部の優勝旗を新らしくしていただきありがとうございます。

7月に3年生の先輩が引退後、1年生11名、2年生14名の25名で今年の酷暑の中、また限られた時間の中で「丹波市新人大会団体優勝・兵庫県新人大会」を目



会場で謝辞を述べる春日中剣道部の畑君（右）

標に新チーム一丸となって夏休みの練習に取り組んできました。

市大会の団体戦は混戦でどのチームが勝ってもおかしくない状況でしたが、優勝という目標が達成でき、とてもうれしかったです。真新しい朱色の優勝旗を手にしたとき、自分たちのチームメンバーを心から誇らしいと思うとともに、支えてくださっている方々への感謝の気持ちが沸き上がってきました。今後も次なる目標達成に精進し、手にした優勝旗に恥じないよう、日々の練習に取り組んでいきたいと思っています。

関西丹波市郷友会の皆様からいただいた新しく心のこもった優勝旗を今後大切にし、毎年その優勝旗を手にすることを目標に頑張ります。優勝旗を新しくしていただいていたにありがとうございます。

丹波市立氷上中学校 男子卓球部主将

門尾 亮平

## 120周年記念

# すくすく大賞募集事業

関西丹波市郷友会 創立120周年記

念事業「輝こう丹波っ子 丹波すくすく大賞」について、その要項と応募状況は、以下の通りです。

### 支援内容

個人の一部Ⅱ入賞5万円（5件まで）

団体の部Ⅱ丹波すくすく大賞30万円

（1件）、輝こう丹波っ子大賞15万円（2

件）、関西丹波市郷友会会長特別賞10万

円（3件）、入賞5万円（5件）

### 高中小学生・園児を対象に

3月1日から5月31日の期間で丹波市

内の高校生、中学生、小学生、園児を対象に、広く応募を呼びかけました。応募

資格は、A個人の一部／丹波市内在住または出身の高校生、中学生、小学生、園児。

B 団体の部／丹波市内に在住の高校生、中学生、小学生、園児が所属する団体もしくはこれらの人々の育成を目的にかかわる事業・活動を行っている団体。

### 多彩な分野から応募

個人の一部は4名が応募。団体の部は以下の25団体からの応募があった。

東小学校鼓笛隊、丹波と金会、新丹波猿楽座、甲賀流水ノ川太鼓振興会鼓輝（こども太鼓）、柏原自治協議会、認定こども園ミライズ保護者の会、ピアノ・ファイトイズ、丹波沼貫よさこいチーム一心貫、春日ミニバスケットボール協会、沼貫少年野球クラブ、ソフトテニススクールのステップツ、丹波ベリーエース、丹波ジュニア卓球クラブ、氷上南少女バレーボールクラブ、丹波市サッカー協会、市島サッカークラブ、スポーツクラブ21氷上東、ケント・オーバン部会、丹波生郷国際交流協会、春日部同窓会、吉見自治振興会、山南中学校福祉委員会、小川地区自治振興会、柏原高校インターアクト部、805たんばサポータークラブ

事業委員会 芦田敬一



# 多士濟々、興味深い寄稿

戦前期の会報をひもとく

副会長 小田晋作

本誌第1号に記載したように、関西丹波市郷友会は明治32年（1899年）に「大阪氷上郷友会」として発足。2年後（明治34年（1901年））に東京の氷上郷友会と合併後は「氷上郷友会大阪支部」となり、その後大正14年（1925年）に「関西支部」、昭和7年（1932年）に「関西氷上郷友会」として独立して「関西氷上郷友会」と



氷上郷友会本部総会で田健治郎会長（大正10年、東京玉川の田家別荘庭園）

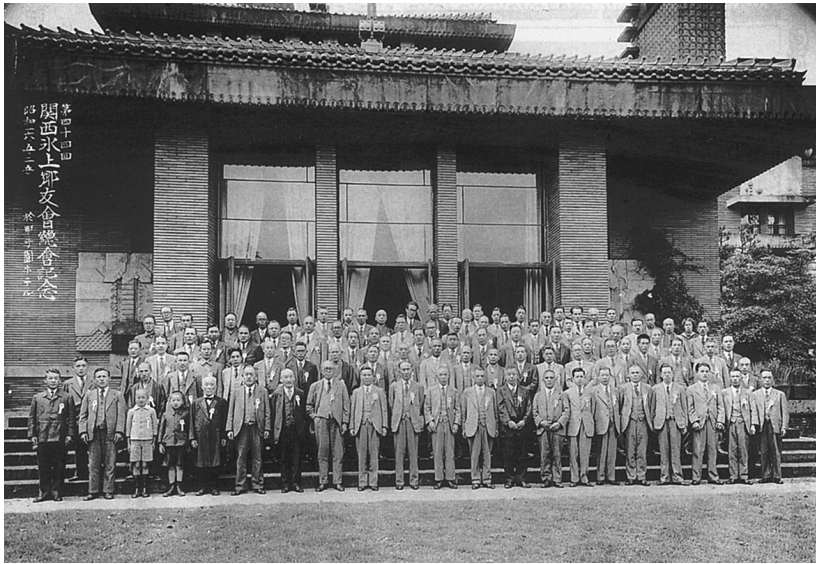
なり、「関西丹波市郷友会」と改名した現在まで続いている。事務局に現存する会報バックナンバーから、草創期から戦前にかけてのものを紐解いてみよう。

最古なのは明治35年（1902年）5月発

行の「氷上郷友会会報」第2号。東京本部と大阪、京都、神戸、氷上各支部からの「基本金寄贈承諾人」名が列記され、計9275円。この120年間に米価が約4000倍に上昇していることから換算すると3700万円という金額になる。

60人以上の寄贈者のうち主だった人を挙げると（以下、すべて敬称略）、東京では会長の元柏原藩主、子爵織田信親（3年年賦で1000円）を初め、田健治郎（後に台湾総督）、田邊輝実（貴族院議員）、松本剛吉（後に衆議院議員）、井上雅二（後に衆議院議員、妻の井上秀は後に日本女子大学長）、安藤広太郎（農学博士）ら。また大阪の田艇吉（後に阪鶴鉄道社長）、京都の津田要（元織田家重臣、松山地裁所長など歴任）、神戸の三崎省三（後に阪神電鉄専務）ほか、氷上支部からも多くの人が名を連ねている。同号によると、明治35年4月に柏原

町・崇広小学校講堂で氷上郷友会創立總會が開かれた。前年に東京と大阪が合併したのに伴う催しとみられる。この席で



昭和16年の総会（甲子園ホテル＝現武庫川女子大甲子園会館）

田健治郎東京本部委員長が明治28、9年頃からの郷友会設立への経緯について説明した後、「福岡、山口、石川などの各

県で旧藩主を中心に在京などの学生を支援する機運が高まり、大学卒業生の数が際立って多い。隣の多紀郡も郡内に鳳鳴義塾を作り、東京でも多くの学生の奨学育英を進め、成果を上げている」などの例を紹介。これらに倣って、有為な青少年を育て上げるべく大いに活動を広げようと提唱している。

また同号に、「柏原中学卒業生の現況」について、大江礒吉校長からの回答が掲載され、明治35年3月の（同校第1回）卒業生は有田邦敬（後に大阪市助役、京阪電鉄社長）ら23名。このうち氷上郡の者は18名。残り

は大分県各1名となっている。卒業生の進路は東京高等師範、広島高等師範、東京高等工業、大阪高等工業、東京高等商業、神戸高等商業、東京外語、岡山医専、海軍兵学校などがざらり。

新年度の在校生徒数は299人で、うち178人が氷上人。100人以上が郡外から来ていることになるが、「前年に京都府第3中（福知山）、本年に兵庫県立小野中が開校したので、本年の入学生は郡外が減少。今後は逐年、郡内生徒の比率が高まるだろう」。

それから20年ほど下った大正10年（1921年）発行の氷上郷友会会報第7号（この時点では「大阪支部」）には、本部総会が当時帰京中の田健治郎台湾総督の東京・玉川邸で園遊会方式で行われたこと、田が新会長に選出されたことなどが報じられている。また中之島公会堂で開かれた大阪支部（田艇吉支部長）の懇親会では、東京から井上雅二（先述）が



2年で終わった氷上女子郷友会創立記念撮影（明治36年、京都で）

12月発行）には、直前に起きた関東大震災について、会員の被害は比較的少なかったこと、大阪支部から3000円の見舞金が寄せられたことなどが田艇吉支部長からの見舞状と共に記載されている。

大正11年（1922年）から大阪支部独自の会報の発行が始まり、同12年の第2号には、本部の田健治郎会長を招いての総会の報告。田が台湾

の現状について講演し、「日本の領有以来、衛生状態は格段に向上し、伝染病も内地以上に安全。植林が進んで禿山

が少なくなった。また学校を整備し、人材を育てているの

で治安もよくなった」などと話している。

来会、「関係の深い東洋、南洋の諸事情」について講話している。

また氷上郷友会会報第9号（大正12年

「関西氷上郷友会」として独立した昭

和7年に「関西氷上郷友会会報」創刊号が発刊された。葛野村出身で静岡在住の大日本報徳社副社長の佐々井信太郎が寄稿し、二宮尊徳全集（36巻）について解説。また「津田要（先述）君遺族所蔵」の「氷上女子郷友会創立記念」の写真が掲載されている。明治36年（1903年）

に、京都在住の津田夫妻の主催で、府立高女、同志社などの女学生を中心に発足したが、翌年に嵐山へ遠足した後は消滅したという。

昭和8年の第2号には「小島省齊（柏原藩校「崇廣館」創設者）先生50年祭に当たりて」という田艇吉会長の寄稿。昭和9年の第3号にも「阪鶴鉄道物語」という田の寄稿。

昭和10年の第4号に「氷上郡内小学校の最優良卒業児童を表彰することになり、卒業式当日に表彰状と三省堂発行の国漢文辞典を授与」とあり、学校別に尋常科、高等科合わせて106名の名前が



掲載されている。なお、昭和15年発行の第9号によると、同年から新たに柏原中、柏原高女卒業生も加えられることになり、第10号（昭和16年）には上田三四二（後に歌人、作家）の名が見える。

昭和9年に室戸台風が関西地方を襲い、約3000人の死者・行方不明者を出すという未曾有の惨事となった。翌10年の第4号に「伊東綾子女史の殉職」という記事。会員の宮垣矩章の長女で、北河内郡牧野村小学校の教師をしていたが、「台風当日、クラスの児童を全員避難させたが、自分だけ倒壊した校舎に巻き込まれて即死。同校では他の児童11人が犠牲になったが、彼女のクラスは全員無事だった」。

昭和11年の第5号に、「沐猴冠者」なるペンネームで「丹波の牧歌―大路出身 関秀作家・深尾須磨子さんの紹介」。その随想の中に、彼女が6年ぶりに帰省して黒井駅から郷里の姉の家へフォードで

乗り付けた時に交わした言葉「―知らさんならん知らさんならんと思ひましたやけどなあ、たうとう電報も打ちまへなだぢゃなあ。―なあしたまあ、一寸知らしてくれてやとよかったのになあ。―どうだす、みんな変わりござへなんだけ？」を引用。「2度までも欧州へ洋行した女史に似ても似つかぬ丹波弁を、興深く感じた」。

昭和13年（1938年）発行の第7号。この年7月に阪神間で大豪雨による水害が発生し、六甲山麓の各地で崩壊、1万戸以上が倒半壊し死者・行方不明715人に及んだ。

会報では「K・M生」が住吉川、石屋川、大石西郷川、生田湊川、新湊川、妙法寺川など各方面に30人近くの会員宅を見舞って安否や被害状況を聞き、「罹災会員慰問行脚の記」を掲載。「浸水土砂流入甚大」という「神戸区元（元町か）」の横尾発太郎会員を訪ねた部分では、「胸

部に達する浸水が、山積した数多の賞品を流出せしめ、その跡には膝を没する土砂と泥が置き残されて茫然自失、手の下しようもない光景は実に挨拶の言葉もなく、ただ切に地合いと復興を衷心祈るのみであった」などと赤裸々。出征中の会員留守宅で、妻がかいがいしく家財整理している姿なども記述している。

多くの会員からの礼状も紹介され「住吉川の氾濫で、避難した近くの家から振り返ると、すでに我が家はなく、松の木によじ登って指揮していた消防夫が衝突した大木にゆり落とされて濁水に消えた。見上げる観音林一帯の別荘地帯は川原と化し…」と惨事の恐怖を語っている。

昭和17年発行の第11号に、亡くなった会長、有田邦敬（柏原中第1回卒業生、先述）の思い出を「松井生」が記載。「故・田（艇吉）会長が在世中のある役員会の席上、田翁が得意の長命談に花を咲かせ

ておられたその真っ最中、突然有田さんがポケットに忍ばせた例のウイスキー瓶を取り出して、笑いながら『田さん、私の長命薬はこれですよ』と、一同をあぜんとらしめられたことがあった。相手が謹厳な田翁だけに、ちょっと誰でも出来ることではない」というエピソードを披露している。

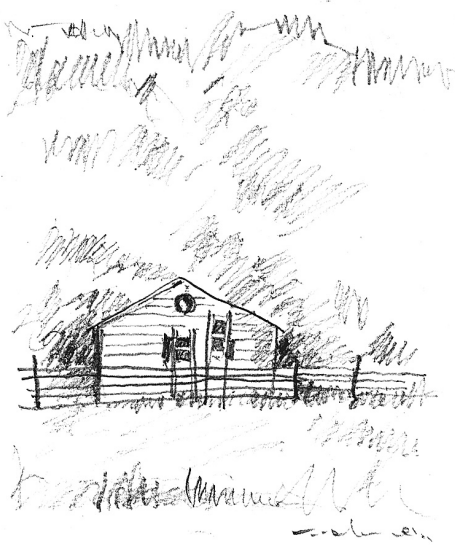
第12号（昭和18年発行）には「帰還土産話」として、南洋の「〇〇島（名は伏せてある）」に前年に侵攻した海軍大佐、田中宗三郎の講演。「捕虜にした英軍の高官の態度が非常に立派だった。我々には大和魂があるが、敵の米英も正義心、責任感の強いものを持っている。これを恐れることはないが、決して軽視できないと感じた」と、通常伝わってくる日本軍人とは異なる感性が、非常に興味深い。

太平洋戦争に突入するまで、この間の「関西水上郷友会会報」のバックナン

バーには、以上に見て来た記事のほかに、「書道雑言」（田中翠雨、第2号）、「タングステンの話」（理学士 横尾孝、第3号）、「セルロイドの話」（大日本セルロイド技師 大垣順四郎、第4号）、「取引所売買の実際について」（大阪株式取引所 内堀憲太郎、第5号）、「酸素の話」（垣内藤四郎、同号）、「浄瑠璃はいずこ

へ」（山下景三こと竹本春香大夫、同）、「反産業組合運動の跡を観る」（田中健二、同）等々、様々な分野の多士済々の人たちによる寄稿が連ねられ、会員の日常生活や仕事における躍動と共に、郷友会に寄せる思いが伝わってくる。

（柏原町在住）



## 関西丹波市郷友会 略年表

1899	明32.10.21	大阪氷上郷友会発会
1901	明34.10.17	(東京)氷上郷友会(織田信親会長)と合併し、氷上郷友会大阪支部に支部長 田艇吉
1902	明35.4.20	柏原町崇広小学校で氷上郷友会創立総会 東京本部、大阪・京都・神戸・氷上各支部
1921	大10.11.11 11.27	京都・神戸支部を合併 氷上郷友会第2代会長に田健治郎
1923	大12.9	東京の氷上郷友会へ関東大震災罹災者向けに300円見舞金
1925	大14.10.14	中之島中央公会堂で大阪支部25周年の祝賀大会 関西支部に改称
1932	昭7.4.23	東京より独立して関西氷上郷友会に 田艇吉会長
1934	昭9.5.5	氷上郡内小学校卒業の優等生表彰のため郡教育会へ100円寄付を決める
1939	昭14.5.6	第2代会長に有田邦敬
1940	昭15.5.12	厚生事業に拠金21,000円。うち15,000円を戦没者等遺家族への慰問金や招魂祭祭典費助成に寄付
1942	昭17.5.16	第3代会長に上田要
1943	昭18.9.30	会報12号を最後に戦争激化のため休会
1955	昭30.5.5	大阪・今橋クラブで復会
1958	昭33.6.22	第4代会長に永井幸太郎
1963	昭38.11.10	第5代会長に荻野益三郎
1969	昭44.10.20	創立70周年記念総会。有田喜一防衛庁長官らが講演
1984	昭59.11.8	第6代会長に田季晴 後進の育成のため賛助基金創設、1173万円(現在は約3600万円)
1990	平2.11.17	第7代会長に広瀬巖
1995	平7.11.11	青少年への援助育成に功労に対し、貝原兵庫県知事より「のじぎく賞」受賞
1998	平10.11.14	大阪梅田の阪急インターナショナルホテルで創立100周年記念総会。「ひとづくり大賞」(賞金総額300万円)の表彰 第8代会長に田晴通
2004	平17.9.10	氷上郡合併に伴い、関西丹波市郷友会に改称
2015	平27.11.7	第9代会長に有田秀雄



# 「自然との共生」刻み込む

幼児体験に回帰

丹波と私

東京大学名誉教授 岩槻邦男



柏原高校を卒業して大学へ進学した十八才の年に丹波を離れてから、六十六年を超える。京都で過ごした三十年が人生で最長の場になるのかと思っていたが、関東へ移ってからも京都時代より長い年月を生きている。今住んでいる横浜市

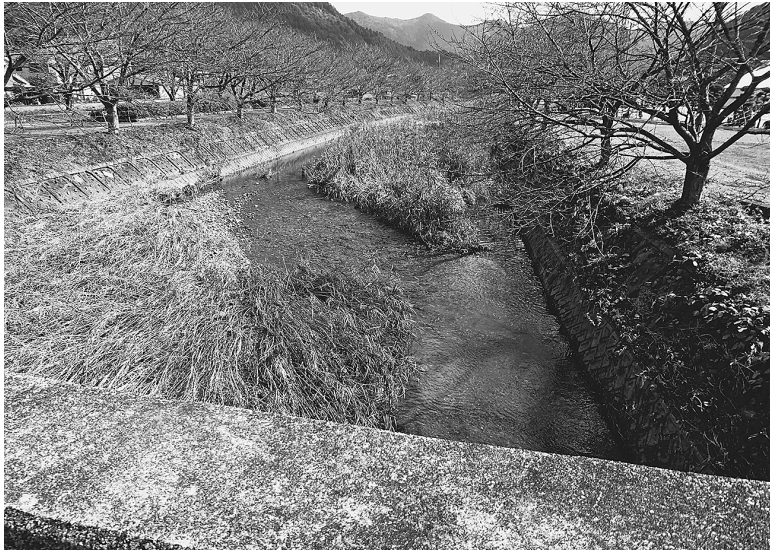
青葉区は、男性の平均年齢が日本一の長寿域だというが、この数字にも貢献しているらしい。

近くに住んでいる娘の隣家の人たちがご主人の退職に合わせて出身地の田舎へ移住されるというので、どちらですか、と伺ったら、「名前をいってもわかってもらえないほどの田舎」といってから、「兵庫県の篠山です」とおっしゃったので、「それなら私の父の出身地も丹波市です。で、近くですね」といったら、「あら、丹波市ですか、あそこはうちよりもっと山奥ですよ」とおっしゃったと、話してくれたことがある。目糞に笑われた

鼻糞も、同じような気分を味わったのだろうか。

関東で、出身は、と聞かれて、丹波です、と答えると、多くの場合、京都府ですか、という反応になる。そのような場合、わたしの丹波は本格的な奥丹波で、丹波篠山と昔丹波の大江山を線でないだ中間辺ですよ、と説明すると、ずいぶん辺鄙なところですね、である。遠慮してだろうか、面と向かって、山奥ですね、といわれる人はあまりない。そこで、奥丹波は山奥ではあるものの、ここは古代から著名な山奥で、その頃都では、飛驒や信濃は防人の供給源の東国と一括されて、山奥とも認識されていなかった、と居直ることにしていた。私が育った旧鴨庄村は賀茂神社の荘園だったそうだから、平安時代には農奴の住む村だったのだろうか。

私は柏原で生を享けた。父は但馬の自作農の次男だったが、高等小学校卒業



子供の頃、よく遊びに行った柏原川

後、開拓民として北海道へ移住していた  
一代前の次男（父の叔父）を頼って、北  
海道で農学校を卒業し、旧氷上郡まで  
戻って職に就き、旧沼貫村出身の母と結

婚していた。私が生まれたのは、八幡山  
の裾の長屋だったそうであるが、すぐ  
同じ屋敷の別の借家に移住したので、私  
の意識のある柏原はその家からである。

といっても、崇廣幼稚園から国  
民学校へ進んだその年に第二次  
世界大戦が始まったので、私の  
柏原の記憶は戦争にまつわる話  
が多い。もっとも、軍需に関わ  
りのない丹波だったから、戦争  
といっても別世界の出来事で、  
直接の被害を受けたことはな  
い。

戦後の日本の厳しい経済状況  
下でも、当時としては新聞やラ  
ジオで情報を得ることに積極的  
な子供ではあったが、日頃のく  
らしでは、食べるものがなくな  
る、というような危機的状況に  
追い込まれてはいなかった、少  
なくとも子供の意識では。なに

せ、甘藷入りのご飯にすると、美味しく  
てかえってコメの消費が多くなる、と  
か、甘藷は茎まで食べるといっても、そ  
れが美味しくて食が進むと、母がこぼし  
ていたくらいである。山草採りは子供の  
頃からの作業だったが、それにしても、  
腹を膨らませる食材収集ではなく、結果  
として季節の植物に触れ合う素晴らしい  
体験だった。自然との共生という意識  
は、日本が経済的に厳しい状況にあった  
頃の丹波の穏やかな暮らしのうちでも、  
私の体に刻み込まれたものだった。

十八歳の時に大学へ進んでから、自分  
としては力一杯に生きてきたつもりで、  
東大（当時六十歳で）と立教大（六十五  
歳）を定年で去ったあとも、さらに放送  
大学で、生涯学習、遠隔教育に取り組ん  
でいた最中に、人と自然の博物館でお手  
伝いをするように誘われて、ちょうど半  
世紀ぶりに兵庫県に戻ってきた。博物館  
の建物のある場所は三田だから、丹波で

はないものの、すぐそばである。本職は関東にあり、横浜に住みながら始まった博物館への通勤だったが、それが十年続くことになり、私としても関心がありながら、全力投球とはいかなかった生涯学習支援の施設での仕事に参画させていただいた。東京大学でも、職場は附属植物園だったので、国際的に植物園の生涯学習への関与が課題となっていた時期でもあり、自然環境と生涯学習支援を結びつける活動にそれなりに努力していた。奥丹波で、みどりに包まれて育った者としては、その後の学習で頭でっかちになっていた身の、幼児体験への素晴らしい回帰である。

人と自然の博物館に関わってまもなく、丹波の恐竜が見つかり、全国的な話題となった。私が幼い頃花見に出かけ、下滝駅から川代溪谷に向けて、よちよち歩いて踏み締めていた地下に、恐竜の化石が一億年以上の間眠っていたという

のである。幼い頃、土筆を摘んで夢想した電信柱のような土筆を食べていた恐竜が、実際そこに住んでいたと、自分の博物館の仲間が科学的に立証したのである。恐竜好きの子供時代は昔のことであるが、自然と共生する生の素晴らしさから目が逸れることなどあり得るはずがない。

田舎とか山奥という表現が、一方的に軽蔑的な表現とみられていた時代には、なんでも右肩上がりの成長が礼賛されていた。今でも、日本人の大多数は、今日の暮らしの豊かさのために、未来まで犠牲にして平気である現実がある。だから、少子高齢化は農村で顕著だとか、さらには限界集落などという表現も跋扈する。ただし、ここへきて、コンクリートジャングルでの生活に疲弊する人が増えてきたためか、農村回帰の傾向もまだ僅かながら目立ち始めてもいる。明日の丹波がどのような社会を育てるか、私自身

がそれを確かめることはないだろうが、目の黒い間は関心をもって見つめ続けることだろう。

(市島町出身、横浜市在住)



# 「ふるふる」ほどほどに

情緒豊かな環境から世界に発信

丹波と私

大阪大学名誉教授 柳 田 敏 雄



ノーベル賞受賞者の故・アンドリュー・ハックスレー教授にケンブリッジの自宅に招かれ

丹波で高校まで過ごしたが、その時は丹波に特別な感情を抱くこともなく、むしろ早くこの田舎から都会に脱出して新しい世界に飛び込みたいと思っていた。そして、高校を卒業して大阪の大学に入った。しかし、今思い返せば決して裕福ではなかったが、精神的にはずいぶんと贅沢な子供時代を送ったと思う。夏の盆踊りに家族や近所の人たちと連れ立って行き、その時食べたソフトクリームは信じられないくらい美味しくて、人生で最大といってもいいくらいの幸せを感じた。

夏休みは一日の大半を川に潜って魚を

とって遊んだ。片手で持てないくらい大きな鯉を銚で捕まえた時の感動は今も忘れられない。疲れたら畑から黄色く熟れたまっかうりをとってきて食べ、ひんやりとした畳の上に寝転がって昼寝。至福の時だった。夜にはホタルを追いながら松明を焚いて水を張った田んぼで寝ているフナやハヤを網ですくって遊んだ。時には数十センチもの大きなナマズが産卵のためにバチャバチャと溝を上っていくところを蛭をとる網で捕まえたりもした。秋になると、松茸やしめじが籠いっぱい採れたし、栗山にそっと入って栗を失敬して叱られたり、山に仕掛けをして山鳥を捕まえたりと楽しかったことがいっぱい思い出される。

こんな情緒豊かな環境が、子供の成長に影響を及ぼさない訳がない。後に外国で世界の名だたる研究者と激しくやり合った後、トイレで鏡に写った自分の顔を見たとき、素朴な丹波時代の自分が思

い出され、そのギャップに苦笑いするところがよくあった。きっと、無意識の中にある丹波時代のほのぼのとした素朴な感情が、強い精神的負荷を和らげてくれていたと思う。

私は丹波を出て大学に入ってから50年間ずっと研究をしてきた。自然に溶け込みそれと共生するという丹波時代に体の奥深に埋め込まれた感情は、私の研究の方向を決める大きな要因になったように思う。大学時代はコンピュータの素子である半導体やIC、そしてそれを働かすための情報工学の研究をしていた。当時はこれからの産業を担うものとして期待され、とても華やかな分野であった。狭い田舎から大きな世界に飛び出したかのようでとても嬉しかった。期待どおりの展開であった。

しかし、数年もするとこの分野はどうも性に合わないと感じるようになっていった。0か1かで正確に処理し白黒はつき

り決着をつけるデジタル技術は、なんだか機械的過ぎて冷たい感じがしたのだ。

そこで、大学院博士課程では生き物の研究に分野を変えた。まず始めたのは、素人の私でも扱えそうな筋肉の研究であった。筋肉の研究は歴史が古く膨大な数の研究がなされ、ノーベル賞を受賞し、世界の多くの研究者に尊敬されていたケンブリッジ大のA・ハックスレーがすでにその仕組みを明らかにしたと教科書にも紹介されていた。しかし、その仕組みも機械と同じようにカチカチと動くデジタル的なモデルであった。これでは生き物と機械は同じになってしまっているのではないかと落胆したが、どうみても筋肉の動きは機械とは違って柔らかく、やさしく繊細である、そんなはずがない！と調べて研究を続けた。10年近く苦労を重ね、ついにこのデジタル的モデルは間違っていることを証明した。定説が覆り世界は大騒ぎになった。

では、次はどのような仕組みで働いているかである。幸運にも年間何億円もの研究費が使える大型プロジェクトが採択され、レーザー技術を駆使してタンパク質分子1個を観たり捕まえて操作する1分子技術を開発した。この技術を使って、筋収縮を担っているタンパク質分子（モーター分子）は、カチカチと機械的に動くのではなく、ふらふらと曖昧に、しかし最終的に目的に向かって動いていることを発見した。

この説を世界に発信したが、白黒はつきりさせたがる西洋文化には合わなかったようで、なかなか受け入れられなかった。そして、その後20年間近く世界を敵にまわして戦う羽目になってしまった。国際会議に招待され（引っ張り出され）総攻撃を受けるといったことが年に何度もあるようなかなり辛い（今となっては懐かしいが）生活が続いた。しかし、粘り強く頑張ったお陰で、最近になって分

子モーターだけでなく細胞の様々な働きを担う多くの分子も、さらには人の脳でもふらふらとゆらぐことが働きに重要であることが報告され、私の主張は認められるに至った。

生き物は機械と違って細かくコントロールされることはないので、自らふらふらとゆらいで試行錯誤しながら状況に合わせてほど良い状態を探し働くというやり方を生み出していたのだ。これは、省エネで変動する複雑な環境にも柔軟に対応するための実に巧みな戦略である。このやり方では機械のような正確で高速な働きは期待できないが、生き物が置かれている環境はそもそも100%正解があるような世界ではないので、状況に合わせてほどほどの正確さで柔軟に働くやり方は理にかなっているし、他との協調にも有用である。

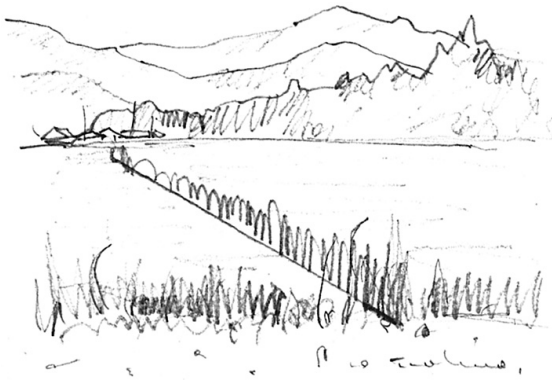
このことは、我々の社会にも当てはめることができるように思う。物質的豊か

さを求めてきた20世紀は目標が比較的明確であったが、ものがあふれグローバル化によりますます複雑化する21世紀の社会では、何を目標にすればいいのかが見えづらく皆不安を感じている。こんな時こそ何億年も生き抜いてきた生き物の「ふらふらとほどほどに」という戦略が有効かもしれない。

近年人工知能（AI）が急速に発展し私たちの社会を大きく変えようとしている。しかし、「ほどほどに」は私たちが日常で普通にやっていることであるが、正確な答えを出すことを使命としているコンピュータにとっては、実はもっとも苦手でも難しいことなのである。今のAIが我々の身近な生活にまで浸透してくると生き物らしさからかけ離れたガスギスした社会になってしまいそうである。私はこのようなことにならないように、脳の働きに根ざした人にやさしい次世代AIの研究開発を最近立ち上げた脳

研究センターで若い研究者と共に進めている。

（春日町出身、豊中市在住）





# 異国にいてこそ感じる

離れていても恩返しを

丹波と私

駐モンゴル特命全權大使 高岡 正人



僕が丹波を離れたのは柏原高校を卒業して、東京大学入学のために上京した18歳の時でした。以来、43年もの長い歳月が経ちました。それでも、僕のアイデンティティーは、丹波、もっと細かく言えば、山南町坂尻という山間の部落を抜き

に語ることは出来ません。大学卒業後は東京霞ヶ関の官庁街での勤務、色々な外国での駐在を繰り返していますが、丹波の斑紋が落ちることはありません。

さて、18歳で上京してまず驚いたのは人の多さ。満員電車に乗り降りする度に、「今日は東京で何かあるんや」と思いました。柏原高校の同級生が遊びに来て新宿駅の猛烈な人混みに呑み込まれたとき、「自分で、なんやろ」と呟いていました。丹波の者はみんな同じ気持ちになるものです。次に、東京の暮らして困ったことは、言葉でした。なにせ、丹波弁

しか話したことがなかったので、東京の言葉を話すのは気恥ずかしく、口も回りませんでした。幸い、東京大学には京阪神出身者を中心に東京言葉に簡単に染まろうとしない勢力が幅をきかしていたので助かりました。

「・・・せやじょ」とか、「・・・ホンマこ」とか純粹方言を話すのはさすがに憚られました。ある程度共通語的な関西言葉を選べば、東京でもやっていけると自信が付きました。クラスの仲の良い友達は神戸や名古屋、高松といった地方出身者が多く、また、入部した自転車部という運動会でも灘高卒などの関西の学生が有力だったものだから、遠慮は無用。関東出身の学生にもべらべらの関西弁で通すことになりました。結局、大学ではその調子で過ごし、社会人になってからも当初見知らぬ人に対しては遠慮しますが、仲が良くなるにつれて関西弁が出るようになり、それが今に至っていま

す。お陰で、自分なりに標準語を話しているつもりでも、相手から「関西の方ですか。言葉の端々からそうかなと思いました。」と言われます。

大学で自転車部に入部したのは、子供の頃から自転車を漕ぎ続けていたことの因縁でしょう。特に高校時代、家から柏原までの自転車通学がしんどかった。雨の日の朝、高校の駐輪場にやっとこさ到着して、カップを脱ぐと、雨でなく、汗でびしょびしょになっていました。冬の雪道で滑って転んだこともしばしば。ズボンのお尻はサドルで擦れてツルツルになりました。今でこそ、坂尻から応地につなぐ道路ができて、柏原への距離も幾分短縮されましたが、当時は片道一時間近く、黙々とペダルを漕ぎました。だから、丹波に戻って加古川沿いの国道175線や稲畑から新井にかけての峠など当時の通学路を車で走ると、あの頃のこと

が細かく思い出されます。自転車部入部当初、先輩から「体力、すごいね。」と驚かれました。東大の新生生の殆どは受験勉強に追われた都会っ子なので、運動する余裕もなかったのだと思いますが、毎日自転車漕いでいた僕からすると、「せやろ。」という感じでした。

自転車部では夏休みなど長い休暇に入ると自転車旅行に出かけました。東北、北海道、四国、九州など日本各地を走りましたが、山間の田舎で夜を過ごす、都会出身の仲間達は「このあたり、何もないね。静かだね、音がしない。どうして過ごすのだろう。」との感想。丹波出身の僕からすると、そんなことで驚くのかと逆にびっくりした覚えがあります。一度、自転車部の仲間が自転車を走らせて坂尻の実家に寄ってくれたことがあります。その時は父も喜んで、ぼたん鍋を振る舞い、丹波郷土史談義に花を咲か

せました。僕の友達には都会人ばかりなので、山に囲まれた田舎の風景にびっくり。「こんなところからよく東大に入れたね。」と感心してくれました。僕にとってはこれが当たり前だったので、なんとも言えません。そんなこともあって、僕には「丹波の」という枕詞が付けられました。僕の行動や考え方に「土」の臭いがあるのでしょう、いつもご飯をたらふく食べていたこともあって、「野人」と称されることもありました。

大学進学時、物理学の道を志していたのですが、曲折を経て、国際関係論という全く違う専攻に転向しました。山深き丹波から上京したものとって、国際関係は縁遠い学問かもしれせん。振り返れば、僕が最初に目にした外国人は、子供の頃、父の仕事を何かで聞きつけて花卉園芸の作業場を見学に来られた台湾の方でした。お土産に頂いた乾燥パイナッ

ブルが珍しく、甘くておいしかったのが子供心に残りました。その次に外国人を目にしたのは、1970年大阪万国博覧会に和田中学校の旅行で出かけた時でした。欧米人の背格好の良さに感心し、会場内で外国人と見るとノートとペンを差し出して、サインを求めていました。それほどまでに珍しかったでしょう。

大学4年の時に外交官試験に合格し、卒業とともに外務省に入省しました。丹波を離れたとき、外交官という職業があることすら意識にありませんでした。当時、外交官には洗練された印象があったのでしょうか、大学の友人達は、丹波の僕が外務省に勤務することに大丈夫かと驚きました。ただ、歴史を紐解けば、芦田均元総理大臣は現在の福知山市に生まれ、旧制柏原中学ご卒業の職業外交官でした。郷土の偉人と比較するつもりは毛頭ありませんが、大先輩がいらっしゃい

ました。

さて、外務省では日々の仕事に忙しく追われましたが、日本にいる限りは盆や正月などに親孝行をかねて、家族を連れて丹波に帰り、自分のルーツを覚えてもらいました。お陰で、東京出身の妻も、子供達も、僕の故郷を「坂尻」と呼んでいます。海外に出ると日本との距離が開きますが、異国にいるからこそ故郷を感じることもあります。例えば、三十歳代半ばに駐在したフィリピンでは、時間があれば美しい海のある島などに遠出したのですが、不思議なもので、椰子の木が並ぶ田舎の土道を草履履きで歩くと、何か子供の頃の坂尻の原風景につながるものがあり、強く惹かれました。道ばたでタバコをくわえて鬨鶏用のニワトリを大事そうに抱える村人を見た時、幼い僕が家の庭先でニワトリを抱えている白黒写真の記憶が俄に蘇ってきま

した。オーストリアのウィーンに駐在したとき、両親が訪れてきたことがありますが。ウィーンには、『丹波の森』と親善関係にある豊かな自然があります。花木を生業とする両親がこの土地の草木についてあれこれ品評したのも印象的でしたが、欧州の農地が広大なことに仰天し、「坂尻で百姓するのが阿呆らしかった」とこぼしていた父の言葉が耳に残りました。

50歳前後はロンドンで勤務しました。ビートルズ音楽「Abbey Road」でも知られる豊かな住宅地に暮らし、週末は妻と一緒に街の中心部まで散歩しながら、丹波・坂尻をルーツに持つ自分が世界の中心地で仕事をするようになった人生の数奇を感じたものです。この頃、ロンドンのアメリカンスクールを卒業して帰国していた娘が医学部に入學し、息子もロンドンの由緒ある学校への進学が決まったものですので、坂尻の血を引く

子供達がそのような道を進む運命の不思議を思いました。

昨年暮に父が他界しました。葬儀やその後の仏事を通じて、地域の大勢の方々から有り難い御支援を頂き、繋がり濃さを実感しました。坂尻に残された家屋、土地、墓、山林などをどうするか僕に重くのしかかってくる課題です。東京で柏原高校の同級生が集まると、「おまえ、これから、丹波のことどうするんや」という議論が決まってあります。東京に出てきた者は皆同じ気持ちを持っていくようです。これまで、自分は、退職までもう少し時間があるからと、問題を先送りしてきましたが、そろそろ考えを固める段階です。

最近、柏原高校などで講話の機会を頂き、若い後輩に対して、「故郷が丹波であることを誇りに」と話しました。本当

にそう思います。その一方で、子供の頃、父親に「坂尻におったらあかん。東京へ行け」とよく言われました。それが、今の自分につながっているのかと思いません。丹波から離れています、丹波のた

めに恩返ししたい。でもどうやって？との問いに答えを持ち合わせていないものどかしさが募ります。

(山南町出身)



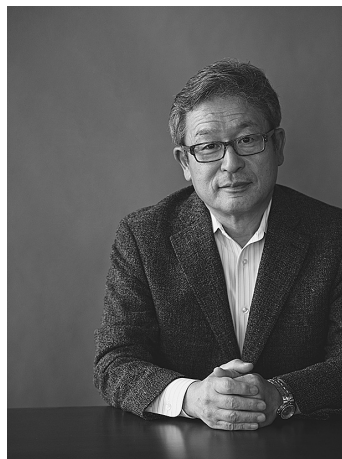


# SDG S 経営の神髄

住友の伊庭貞剛（実名）に魁を見る

作家 江上 剛

（本名 小島晴喜）



最近の企業は「SDG S 経営」を強調するようになった。何のことかというところ「持続可能な開発目標」の英語訳の略だ。要するに地球や人類が存続していくために環境や人権や貧困撲滅に役立つ経営をしようというのだ。

分かり易い例では銀行が、環境破壊の原因となるCO2を大量に排出する石炭火力発電所建設への融資を取りやめるなどが上げられる。この「SDG S 経営」の魁といふべき人物の評伝小説を書いた。「住友を破壊した男―伊庭貞剛伝」(PHP出版)である。このタイトルは少々刺激的なのだが、破壊といっても古い住友を破壊し、新しい住友を創造した意味である。実際、伊庭貞剛は、住友で中興の祖と言われている。

簡単に住友の歴史を紹介しよう。初代住友政友(1585年から1652年)は越前(福井県)の人で涅槃宗の僧侶で

あり、文殊院と称していた。しかし宗門の争いに巻き込まれ、還俗し、京都で富士屋嘉休という本や薬を扱う店を営んでいた。

彼の義兄で涅槃宗の熱心な信者に蘇我家理右衛門がいた。彼は泉屋の屋号で京都で銅吹き業(銅の精錬業)を営んでいた。この2つの家が一緒になり、住友がスタートする。泉屋の創業が1590年。従って住友は2019年現在、創業429年となる。

住友の社章がイゲタであり、グループの集まりが白水会(泉を分けると白と水になる)なのは「泉屋」の屋号に由来する。

さて住友が大きく飛躍するのは愛媛県の別子銅山を1690年に発見したことによる。別子銅山は天領で、住友は江戸幕府から委託され銅を採掘、精錬し、国内外に販売し、財閥の基礎を築いたのである。

住友の銅はバラ色で美しく海外でも大変な人気だった。ところが明治維新で江戸幕府が倒れると、明治政府はドル箱である別子銅山を住友から取り上げようとした。これに抵抗して住友の家業として守り切ったのが広瀬幸平だ。彼は別子の申し子と言われ、幼少期から別子銅山で働き、頭角を現した。明治維新という動乱の時代を住友が乗り切ることができたのは幸平という英雄的な経営者がいたからである。

伊庭は、幸平の甥にあたるのだが法務官僚を辞め、住友に入社する。伊庭が入社した頃は、住友は幸平の絶対的天下だった。今日風に例えるならゴーンが君臨していた日産みたいなものだろうか。そのため住友内部では幸平独裁に対する反発が強くなり、別子銅山では公害に苦しむ地域農民たちの反乱や待遇改善を求める坑夫たちのサボタージュなどが頻発していた。住友の経営危機である。誰か

が問題解決に当たらねばならない。同時期、栃木県で古河財閥が経営する足尾銅山でも同じように公害が発生し、田中正造が農民たちのために活動し、大きな社会問題になっていた。足尾銅山のようになっけはいけない。伊庭は自ら別子銅山に行くことを決意する。今と時代が違うため、命懸けである。持参したのは臨済録だけ。

伊庭がどのようにして農民たちや坑夫たちの反乱を抑え、別子銅山を建て直したかを詳しく知りたければ、ぜひ拙書を読んでいただきたいが、伊庭の覚悟が「住友を破壊しても国家、国民を守る」ということだった。それで拙書のタイトルが「住友を破壊した男」となったのである。伊庭は、「別子全山をもとのとおおおとした姿にして、これを大自然にかえさねばならない」と言い、住友の全ての利益を植林、公害対策に投入した。その結果、別子銅山ははげ山から緑の山に変

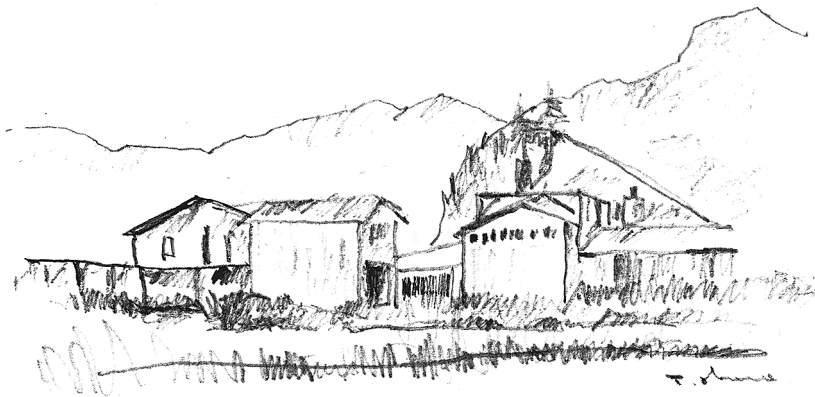
わった。私も別子銅山に登ったが、巨木が生い茂り、ここで1万人もの人々が暮らし、銅を掘っていたことが信じられない景色になっている。伊庭が住友を破壊しても構わないほどの決意で自分の信念を貫いたからこそおおとした自然が回復し、公害問題を解決することができたのだ。まさに伊庭がSDGsの魁である所以である。

伊庭の座右の銘は「君子財を愛す、これを取るに道あり」である。禅僧東嶺円慈の言葉だが、これこそがSDGs経営の神髄を表現している。企業は利益を上げてもいいが、人の道に反してはいけない、社会の利益を優先しなければならぬという意味である。伊庭は住友の利益よりも社会の利益を優先した。もし彼の改革が失敗していたら住友は無くなっていただろう。しかし成功したからこそ住友は今も隆々として続いているのである。

多くの企業がSDGs経営を標榜している。しかしファッション化してはいないだろうか。伊庭のように企業を破壊する覚悟で取り組んでいるだろうか。SDGsに本気で取り組めば、企業経営を破壊する可能性が高い。例えば自然由来の洗剤として私たちが使っているパーム油（ヤシ油）を採取するためにインドネシアの森林が破壊されている。私たちが使うスマホの中にはレアアースが多く利用されているが、これらも自然を破壊し、採掘され、そこで働く労働者は貧困にあえいでいる。

企業がSDGs経営に取り組むなら、自分たちの収益の源がどのようなものなのか、社会や環境に悪影響を与えていないかを徹底的に検証し、従来の経営を破壊する決意で取り組まねばならない。

（山南町出身、東京都在住）



# 雨蛙もトンボも見えない

## 梅雨の書齋窓からの断想

京都大学名誉教授 河合雅雄



近著『ドエクル探検隊』を手に

た。いくら晴天の日がいいと言っても、

こんな日が四カ月も続くと、心まで乾燥してくる。灼熱の太陽が沈んで、西の空に雲が浮かんだ時は、心底からほっとしたものだ。雨季が迫っているという兆候である。

調査は楽になると思ったら大間違い。

調査は適当に打ち切って引きあげの準備にかからなきゃと思う。雨季での調査は中止だ。朝は氷点下二度まで下がるから、いったんずぶぬれになると処置に困る。雨季での調査は能率が悪いし、健康にもよくない。

私はこの季節が好きでない。しかし、

人様々、日本文化に造詣の深いドナルド・キーンさんによると、一年で一番好きな季節は梅雨だという。しとしと降る小雨の中を蛇の目傘をさし、紫陽花の咲く寺の境内をゆっくり歩く姿は、いかにも日本人らしい情緒に富む風景だという。ちょっと作りすぎという感もあるが、同意せざるを得まい。

梅雨が訪れる少し前の頃の楽しみは雨蛙の来訪だ。表札の上に、押し押しの姿での数匹の雨蛙たちだ。表札の上だから、せいぜい三、四匹が適数だが、多い時は七匹の雨蛙が乗った。表札の真上に街頭が灯っている。夕暮れには電灯が灯り、明かりを求めて昆虫がとんでくる。蛙たちの狙いはこの虫たちである。つまり、表札の上の狭い台地が蛙たちの獵場というわけだ。

この二、三年、表札の上の蛙が減り、今年はまだ一匹も見ない。帰宅し、玄関のドアを開ける時、雨蛙のいない表札を

梅雨に入った。うっとうしい日が続く。こういう日が続くと、気分までうっとうしくなり、からっと晴れたさわやかな日が待ち遠しい。人間という動物は勝手なものだ。エチオピアの四千メートル近い高原でゲラダヒヒの調査をしていた時、連日一点の雲もない青空の日が続い



ちらっと見て、蛙の姿が見えないと心の隅が一瞬真空状態になる。つい「おい、どうしたんや」とつぶやいてしまう。

そう言えば、庭の植物は繁茂しているが、動物の姿が見えない。梅雨期だから、当然いるはずのデンデンムシの姿は、とっくに見なくなった。ある日、シオカラトンボが一匹姿を見せた。「ようこそ」と珍客を出迎えるような気になった。

少年期には、ヤンマトリが楽しかった。糸でくくったヤンマを飛ばし、「ヤンマ、ホーラン」と叫びながらヤンマが飛んでいる所へ行くと、その住人のヤンマが攻撃してくる。

ヤンマの雄は、テリトリー(なわばり)に進入してきたヤンマを追い出そうとするのだ。糸につけた個体が雌の場合は、がらっと様相が変わる。雄は交尾をしようとして、おとりの雌にすぐにとびかかり、しっかりと抱きつこうとする。おとりが雌の場合は、ヤンマトリは大成功だ。しか

し、雌はなかなか手に入らない。

こんな風景も、今は見ようたって見られない。遠い記憶の隅に追いやられてしまった。ヤンマどころか、トンボの姿がきき消すように姿を消した。

書斎の窓から見る風景は、裏庭を越して小径の向こうに田んぼが広がっている。小父さんが、何か白い粉をまいている。きつとネオニコチノイド系の殺虫剤だろう。これは最近作られた強力な殺虫剤だ。人畜無害ということになっているが、本当にそうだろうか。風に乗ってこの殺虫剤が私の畠や庭にとんでくるからだろう。害虫はまったく姿を見せない。余光にあずかっているわけだが、喜んでばかりではおられぬようだ。殺虫剤は害虫だけを狙いうちにして殺しているのではなく、ムシと名がつく生き物はすべて殺している。無差別爆撃というわけだ。『新農薬ネオニコチノイドが日本を脅かす』(七つ森書館)という本がある。

2012年の発行だから、ずいぶん前にこの農薬の危険性は指摘されていたことになる。フランスでは、とっくに製薬も使用も禁止されている。農業大国のアメリカは、今も使っているが、低濃度に制限されている。

この本が出版された時、早速購入し、エキサイトしながら丁寧に読んだ。今読んでも少しも古びていない。

丹波篠山市は、篠山市時代に、市の方として、「農都」を宣言した。正しい方向だと思ふし、命名も誇らしくいい。しかし、その実は、あまり上っていないと思う。原因は、黑豆に依存し過ぎているからだ。

今日も小雨。寒梅雨というらしい。表札の上は「いつでもどうぞ」と席をあけて待っているが、たぶん誰も来ないのではないか。

このあたりで筆を止めよう。妄言多謝。

(丹波篠山市在住)

# 男性不妊研究の最前線

## 超音波用のI-T活用

兵庫県立大学教授 畑 豊

コンピュータの高性能化と低価格化によって、情報技術（I-T）は現在の医療行為になくはならない技術となった。

ここでは、I-T活用例として男性不妊症診断を取り上げる。晩婚化が進んだ現在で、30代後半で結婚女性の30%、40代で結婚女性の60%が不妊症と米国で報告されている。不妊症の女性側原因は約5割で、男性側が約3割、その他原因不明が約2割である（図1参照）。

男性不妊症の原因の15%を占める無精子症（図2参照）は、閉塞性と非閉塞性に大別される（図3参照）。後者であっても精巣内に精子がわずかに造られてい

る場合、これを回収し顕微授精に供することによって、可能性がある（図4参照）。

図1 不妊症の原因

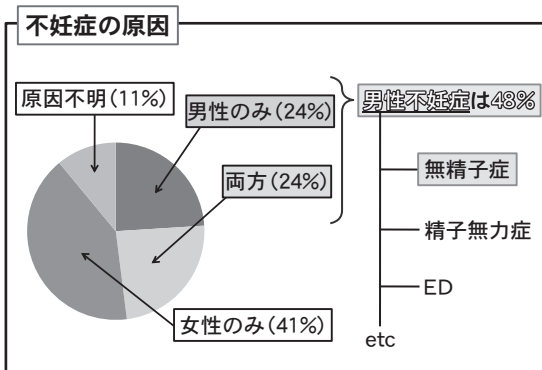
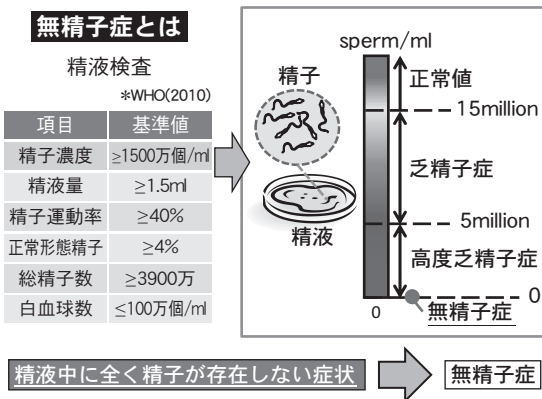
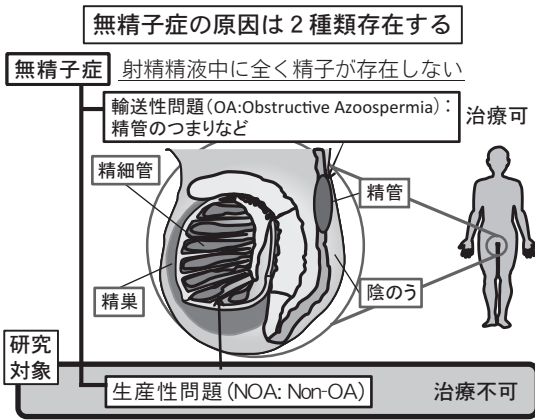


図2 無精子症とは



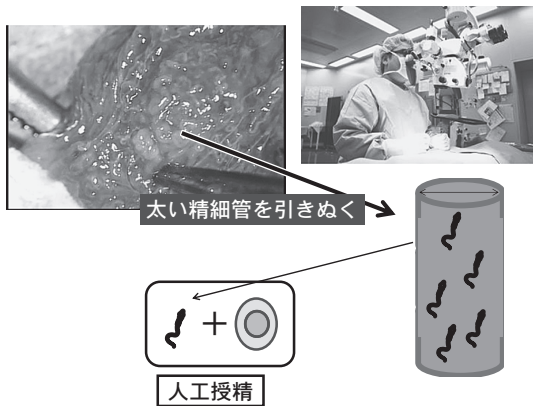
現在、非閉塞性患者に対して、顕微鏡下手術（MICRO-TESSE）で精巣内の精細管を観察し、精子を回収している。しかしながら、全患者の約50%しか精子を回収することができない。現在の主要な医療装置であるX線CT装置を罫丸に使用することは、X線被爆の問題があり、MR装置では、精細管の直径を直接観測することはできない。

図3 生産性問題



そこで、我々は、超音波を用いて精細管を診断する方法を研究している。精細管の太さが精子の回収の有無に係っている。そこで、精細管からの超音波の反射周波数を用いてその太さを計測する。管状で柔らかい物質の管の直径と周波数が反比例の関係にあることを実験的に見出し、この関係により、精細管の直径を計測可能なことを発見した。直径約30

図4 手術の様子



mmの睪丸を診断可能な5MHzの広帯域超音波(波長0.3mm)を用いて、0.1mmの精細管の直径の計測を可能にした超音波計測法の研究である。

現在の研究結果として、人工物の実験では、管状物質の太さを判断できることを確認し、動物(牛)実験では、臨床では使用できない研究用の7T MRIでの比較研究でMRの計測値と超音波装置の

計測値がほぼ同一であることを確認した。現在、ヒトの精細管の実験を行っており、実用化に向けて研究を実施している。

この装置の完成により、全体の約50%を占める精子回収が困難な患者に対して、経済的、心身的な苦痛をさけることができ、患者にとって有益となる。

このように情報技術と人工知能(AI)を医療に使用する研究は、非常に盛んである。将来的には、疾病を自動で診断し、寝ている間に治療する装置の登場も夢ではない。現在のITやAIの進展は、自動運転、医療、産業、サービス等あらゆる分野で大きな影響を与えている。日本の少子化に歯止めをかける上記の不妊症(生殖)の研究、日本の人口減を補完できるAIシステムの研究を今後も推進していきたい。

(春日町出身、姫路市在住)

# 新病院、順調なスタート

## 脳血管疾患の対応が課題

丹波新聞記者 足立智和

県立柏原、柏原赤十字の丹波市内2病院が機能統合した新病院、県立丹波医療センター（丹波市氷上町石生、秋田穂東院長、238床）が7月1日に開院した。

開院からひと月を待たず、満床の日も出るなど、順調なスタートを切っている。昨年度、県立柏原（県立）で1日50人ほどだった初診患者が連日120人を超えており、新しい病院に患者が集まる「新病院効果」が現れている。許可病床は320床で、再来年度に全病床が稼働を始める予定。

2006年度の新臨床研修医制度の開始に伴う医療崩壊により、一時18人まで

減った同病院の常勤医師数は50人と、崩壊前を含め過去最多となった。うち約20人が診療の柱の内科医と、「内科王国」の様相を呈している。

医師免許取得後1―2年目の初期研修医も16人、3―5年目の後期研修医も増えており、若い力が救急患者の受け入れなどマンパワーが必要な部門を支え、病院の推進力になっている。

診療科は27。心疾患は24時間365日救急対応しており、脳血管疾患の対応が課題。外来診療のみの脳神経外科に常勤医を迎えることが、市民、病院の「悲願」となっている。



県立丹波医療センター(左)と丹波市健康センター「ミルネ」(中央)、市立看護専門学校(右端)





多くの患者が訪れている内科外来

急性期病床だけでなく、がん患者のための緩和ケア病床、手術など急性期の治療は終えたけれど、自宅や施設に退院するにはもう少しケアやリハビリが必要だったり、介護保険サービスを利用するための調整や準備が必要な患者のための

「地域包括ケア病床」を設けた。新たに人工透析（15床）も備えた。

廃止された柏原赤十字から、多くの職員が県職員に身分を移し、同病院と隣接する丹波市健康センター「ミルネ」で勤務している。「ミルネ」には診療所と健診センター、訪問看護ステーションなど、日赤にあった機能がそろっている。県立病院の医師らが診療にあたり、訪問診療も行う。2施設で、在宅から急性期まで切れ目のない医療を提供すると共

に、予防などもカバーする。

神戸大学総合内科教授の任期を残し、2013年に赴任した秋田院長は、最大のミッション「統合」を成し遂げた。統合がなった今、新たなキャッチコピーを掲げる。「世界標準の医療を地域に」「若い医療者が集う地域医療の中心地に」。両施設（病院181億円、ミルネ約26億円）と、同敷地内に整備した同市立看護専門学校（約16・5億円）を合わせ総事業費は約223・5億円。



# 阪鶴 — 福知山線に結んだ夢

故郷から都会を目指して

常任理事 芦田敬一

昭和33年夏休み、私は大阪の親戚へ行く途中です。車内は向こうの方からあつとと言う間に暗くなり、トンネルに入つたようです。煙があちこちの窓から入って

来て、車内は一瞬のうち煙だらけになります。皆窓に手をかけて、窓をしめます。が、車内は蒸し暑くなり、煙が立ちこめ、煙のにおいがします。すると、また明る

くなり、武庫川を流れる水、岩そして、緑の木々が見えたと思ったらまた暗闇です。

国道176号線の三田から、駆け下りる赤坂峠とそして、山の間を流れるこの武庫川は、三田より

北と、南の宝塚の阪神地区を分けて、昔より交通の難所でした。どのようにして、この交通の難所に鉄道を通したのでしようか。それは、JR福知山線柏原駅前の銅像をみて思い出す丹波柏原出身の田艇吉と福知山線の前身の阪鶴鉄道のこ

とです。京阪神への水上郡の交通は、日本一低い分水嶺を利用した加古川の水運がありました。が、その他は山の間を時間をかけるしかありません。鉄道は明治時代の大きな産業です。明治20年頃の鉄道ブームで田艇吉は加古川からの鉄道敷設を申請していますが、時期尚早として却下されています。明治22年に日本海側の唯一の海軍基地である、舞鶴鎮守府の計画が決定されました。それに伴い、京都、大阪、加古川、飾磨を起点として舞鶴に結びつける鉄道敷設は田艇吉らの案を含め5個提出されましたが、全てその経済性不備のために却下されました。



柏原駅前に建つ田艇吉銅像



東京・東品川の公園に保存された阪鶴鉄道当時の機関車

さてこの時代の最大の関心事は、帝国議会の開催です。それまでの藩閥政治から、国民の代表の意見にも耳を貸す必要があることを意味します。明治23年には

第一回衆議院選挙が行われ翌24年に田艇吉は当選を果たしました。明治25年の議會で、政府と議員側の交渉により今後の鉄道設置の優先順位を決める鉄道敷設法が成立しました。舞鶴線は京都もしくは土山（兵庫県山陽）からとして、第一期予定線に組みこむことに成功しました。しかし、このことは、京都と兵庫（神戸）との激しい誘致合戦を引き起こすこととなります。当時の神戸又新日報には、連日、誘致のための会議の様相が掲載され、当時の熱気が伝わってきます。田艇吉も兵庫県土鶴鉄道期同盟幹事として、神戸でも報告を行っています。多分京都も同じでしょう。結局、翌年の鉄道会議は、京都鉄道の採用を諮問しました。しかし、私達は、ここで立ち消えて、引き下がるわけにはいきません。京都線より勾配の少ない武庫川に沿った路線が新たに見つかったとして、兵庫県の田艇吉らのグループと、伊丹、大阪の三グルー

プは明治26年、阪鶴鉄道を設立して誘致を新たにはじめました。大阪の別グループは京都線の園部まで申請して、大阪財界も2分されました。

このように、大阪、京都、神戸と大都市を巻き込んだ誘致合戦は、明治27年に京都鉄道に舞鶴と京都間、阪鶴鉄道には神崎（尼崎）と福知山の鉄道敷設の免許と言う形で終わりました。この頃、翌年まで続く日清戦争が始まり、経済は活況、不況と続き、鉄道事業もこの影響をうけることとなります。

阪鶴鉄道の第1代の社長は、宇和島の脱藩浪士出身で、鴻池家の責任者で当時の大阪商業会議所会頭の土居通夫、第2代は14歳で会津落城の悲劇にみまわれた、鉄道敷設の専門家の南清です。武庫川敷設の難工事で予算もオーバーで、また、社債も処理できません。明治31年6月には、三田までで鉄道敷設中止がほぼ決まっていました。しかし、南社長の強





1986年の新線切り替えに伴って廃線となった武庫川沿いの旧軌道

い意志で続行されたといわれています。そして念願の福知山までの開通は、明治32年7月で、田艇吉の執念は実ったので

す。

さて、この年の秋、明治32年（1899年）10月に大阪の曾根崎の静観楼で関西丹波市郷友会の前身である大阪氷上郷友会の第一回総会が開かれています。鉄道開通で故郷氷上郡は近くになりました。代議士をやめて4年、大阪を根拠地にして住友家の重役になり、阪鶴鉄道の取締役であった田艇吉は、恐らくこの開通を機会に氷上郡出身者の結びつきを強めたい気持ちがあったのでしょう。

それから、幾年月がたったのでしょうか。昭和42年春、私は18歳です。ジーン、ジーンと突然ベルがなります。大阪駅3番線ホーム、思いがけない眼の涙をこらえます。目の前の急行の黄色い車体のあいた窓より父は私の方を向いています。明日より、両親のいない生活です。その日は、父に連れられて下宿する伯母さんの家に列車で行きました。その時の気持ち、はっきりと思い出す事はできません。

んが、漠然とこれからのことを考えていたと思います。

しかし、あれから50年たっている今、思い起こすと、故郷から都会に、そして今に続く長い道のりの第一歩の列車だったのです。私達、氷上郡、丹波市の多くの人々が夢を抱いて、一度は乗らなければならなかった列車だったのです。それが、宝塚、大阪を目指してあの武庫川を走る列車なのです。

（青垣町出身、尼崎市在住）



# 「丹波布」受け継いだ使命

## 技術と共に精神の大切さ

丹波布技術認定者 イラズムス千尋

母方の祖父母が住む丹波に引越してきて、15年が経ちました。小さなころは両親に連れられてよく遊びに行き、成長してからはJRの福知山線に乗り石生駅で降り、氷上に住む祖父母に会いに行っていました。伊丹で生まれ育った私にとって、丹波は「おじいちゃんとおばあちゃん

のいる所」として、小さなころから親しみのある土地でした。

陶芸家である主人の独立をきっかけに、祖母の母、私にとっては曾祖母が住んでいた家（丹波市春日町）に引越し、私の丹波での生活が始まりました。丹波に移る前は主人の修業先である、岡山県

備前市の近くで暮らしていました。そこで機織りを習っていた私に、「面白いところがあるよ」と両親が連れて行ってくれたのが、丹波布伝承館でした。初めて伝承館に行った時、伝承生が糸紡ぎや染色、機織りをしている様子を見て、習ってみたいという気持ちが高じて、ドキドキしたことを覚えています。この時に初めて「丹波布」について知りました。

その後、丹波布伝承館の長期教室に応募し2年間丹波布の技術を学ぶ機会を得ました。丹波布伝承館では、綿を紡いで糸にする糸紡ぎ、植物での染色、機織りといった丹波布の技術工程を週4日、2年間かけて学びます。また、技術工程の他綿を育てたり、藍を育ててすく染を作り、発酵させる（藍を建てる）など丹波布に関係する技術についても体験できます。月、水、木、金の10時から16時が教室の時間で、仕事は夕方からだったので、昼間は伝承館、その後仕事に向かうという



日を2年間続けました。多忙な2年間で  
はあったのですが、この時間を無駄にし  
てはいけない、という思いがあったの  
で、かえって学ぶことに集中できたよう  
に思えます。

伝承館の長期修了後1年経った後、今  
度は講師として丹波布伝承館に勤める機  
会をいただきました。生徒として丹波布  
の技術を学んでいた頃は、綺麗な柄、染  
めたい色、染色に使う植物への興味、しっ  
かりとした布に仕上がるような織り等、  
技術的な事に気持ちに向いていました  
が、講師となり、丹波布の技術を伝える  
側になった時に、〃伝承〃という事に思  
いを馳せるようになりました。

丹波布は江戸の末期から織られ、商品  
として京都などへ出荷されてきました。  
その後、機械化といった時代の波に押さ  
れて無くなっていきます。昭和の初め民  
藝運動家の柳宗悦氏が、丹波布の端切れ  
を京都の朝市で発見したことがきっかけ

で、丹波布の復興が始まります。染色研  
究家の上村六郎氏を中心にして、復興前  
の技術を知るおばあさんから聞き取りを  
し、丹波布の技術が掘り起こされ、系統  
づけられました。現在伝承館で教えら  
れ、また私も学んだ丹波布の技術工程  
は、この先人たちの粘り強い努力のお蔭  
で出来上がったものです。

丹波布伝承館は平成10年に当時の青垣  
町によって設立されました。市町村合併  
に伴い、現在は丹波市立の施設として運  
営されています。

伝承館ができる前から、青垣町は伝承  
教室を開催し、丹波布の技術伝承に力を  
入れてきました。そこで伝承事業の中心  
となったのが故足立康子先生です。伝承  
館が設立された時も講師として伝承館に  
勤められ、伝承館を退職された後も自宅  
で制作を続けられました。康子先生退官  
後は次の世代にあたる、伝承館講師養成  
講座を修了した方々5名が講師として勤

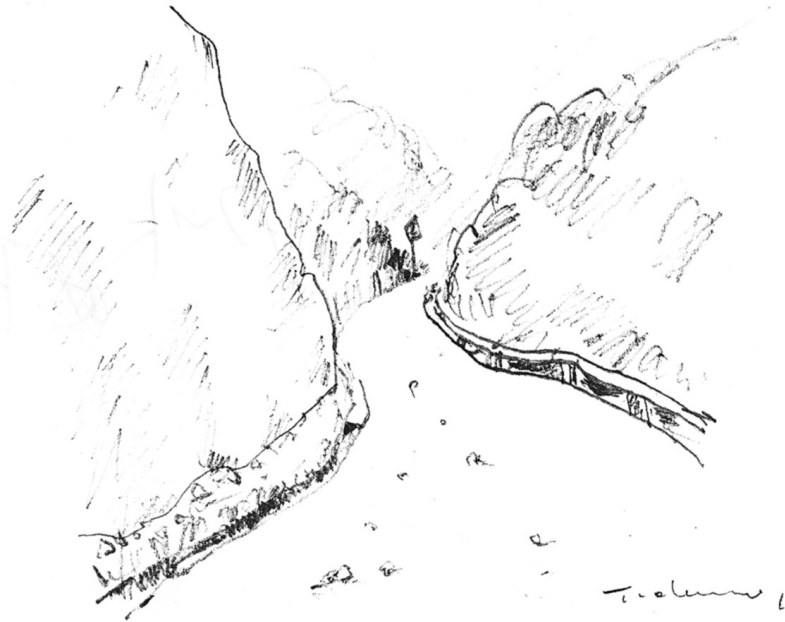
めました。その後若い世代へと代り、現  
在も伝承事業が継続されています。

後継者不足に悩む他の産地と比べ、丹  
波布の伝承事業はユニークでそのシステ  
ムゆえに後継者不足は解消されていると  
言えます。2年毎に伝承生を輩出するた  
め、現在丹波布技術認定者は、70名ほど  
います。その中で継続して丹波布を織っ  
ている人は半数くらいと考えられます  
が、他の木綿の産地と比べると多い方だ  
と言えます。また、丹波布伝承館が市立  
であり、後継者育成を市がバックアップ  
しているという形をとっていることか  
ら、伝承事業が息切れすることなく続け  
ているとも言えます。このような伝承シ  
ステムは私の知る限り、あまりないと言  
えます。

柳宗悦が丹波布の端切れを発見したこ  
とを機によりがえった丹波布の技術は、  
たくさんの方々の尽力のお蔭で、現在も  
伝えられています。この発見と復興と伝

承がつながったお蔭で、私も丹波布を作ることができています。今現在に至る長い長い道のりに思いを馳せるとき、受け継いだ者としての使命を感じずにはいられません。伝えられたものは技術だけではなく、と思っています。その技術と共にある丹波布の精神というものについて、使われ古くなってもなお美しい布を織ることについて、そして受け継いだ者の使命について、そんなことを考え続けながら、毎日綿や糸に向かう日々を送っていると思います。

(春日町在住)



# 熱烈な協賛に支えられ

## 犬童球溪「旅愁」の歌碑を建立

建立委員会 事務局長 赤松 暉久



たんば黎明館前に建った旅愁歌碑

誰もが愛する唱歌「旅愁」の作詞者、犬童球溪が旧制柏原中学の音楽教師をしていたことは、丹波で少なからず知られている。その記念碑を有志が建立委員会を作って今年5月、柏原のたんば黎明館前で完成式を挙行了した。

更け行く秋の夜 旅の空の  
わびしき思いに ひとりなやむ、  
恋しやふるさと なつかし父母  
夢路にたどるは 故郷の家路  
更け行く秋の夜 旅の空の  
わびしき思いに ひとりなやむ

窓うつ嵐に 夢もやぶれ  
遙けき彼方に ころろ迷う  
恋しやふるさと なつかし父母  
思いに浮かぶは 杜のこずえ  
窓うつ嵐に 夢もやぶれ  
遙けき彼方に ころろ迷う

この歌はアメリカのオードウエイの曲に犬童球溪が歌詞を載せて明治40年に発表し、たちまち全国に広がった。

球溪は熊本県人吉の出身、写譜のアルバイト、家庭教師など苦学しながら東京音楽学校（現東京芸大）を明治38年卒業、最初の赴任地として、柏原中に招聘された。「男子生徒にも情操教育が重要」という第3代校長平澤金之助の英断によるもので、西洋音楽の授業を取り入れたのは兵庫県下の男子校で最初であった。ところが、当時は日露戦争に勝ち、国民全体が戦捷気分（せんせつきぶん）に沸き立っており、質実剛健、蛮カラを標榜する生徒たちは「軟





盛大に行われた除幕式

弱な西洋音楽」として、受け入れを拒む。ヤジを飛ばす、机を打ち鳴らす、徘徊する、などで授業は散散。校長らが諫めて叱責すると、全校ストライキに及ぶという有様だったという。

責任感が強く、温和で内向的だった球溪は悩み苦しみ、病も得て失意のまま一

年足らずで退職し、新潟の高等女学校に転任せざるを得なかった。

最先端の音楽素養を身に付け、燃えるような情熱を持って期待されて着任しながら、何の成果もあげられず、鬱屈した日々を送った球溪の心情は察するに余りあるが、それでも転任先の雪深い新潟で、最初に赴任した緑豊かな丹波柏原を懐かしむ詩文を記したのが、不朽の名作「旅愁」に繋がった。その事実は、殊更に吾人の胸に迫るものがある。

十数年前、人吉市が彼の生涯と業績を讃えて製作し、丹波柏原をロケしたDVDの中で、2番の「窓打つ嵐に夢もやぶれ 遙けき彼方にこころ迷う」の処は柏原での辛い経験を詠んだものだと言っていたと、長男の方(当時熊本大教授)が明言しておられたのを仄聞して、私は贖罪の心情で目頭があつくなくなった。

歌碑の建立活動に奔走している最中、

旧制柏原中OBの或る畏友から手紙が届いた(以下意訳)。

「球溪は生涯250編ほどの翻訳作詞をしているようですが、『旅愁』も含めその殆どが原詩の直訳でなく、創作に近いような詩文だそうです。

人吉市内には銅像、顕彰碑が建てられ、旧居跡は顕彰記念館になって、顕彰記念音楽祭も開催され続けています。このように故郷で敬愛されている球溪が失意のうちに去らざるを得なかった丹波柏原は、同地の方々にとっては、ネガティブな情緒をとまなう町になっているのではないのでしょうか。そして、その印象をやわらげる一助として、今回の歌碑建立の計画を同市の「犬童球溪顕彰会」に連絡することを勧めて下さったのだ。

私は返信で、すでに人吉との交流が出来ており、転任先の現新潟中央高校とも交誼を結んでいることを述べたうえ、「やはり柏原がマイナスのイメージを持たれ

ていることは否めないが、球溪は「人情豊かな懐かしい土地」といった印象も持ち続けたようだ。後にあの因縁のあった旧制柏原中の校歌の作曲を依頼され、快く応じたことから推測できる。いずれにしても、球溪がすばらしい詩を数多く残している中でも、随一の名作と云われる『旅愁』が柏原の地の負のイメージの上になり立ったと解釈されていることは複雑な感懐が無きにもあらずですが、傑作が誕生するための必然であったと、以て瞑すべきでしょうか」と返信した。

それに関連して、もう一つの証言を紹介しよう。

昭和41年に発行された同中学創立70周年記念誌に、球溪の生徒だったOBが座談会で、授業を妨害した事実を全面的に認めたと見え、「そのような立派な先生を若気の至りとはいえ、軽んじてあのような行動に走ったのは悔いても悔い足りない

い。遅ればせながら諸先輩後輩のおられるこの席で、先生に心からお詫び申し上げます」と懺悔して追慕されている。

このような事実を踏まえ、我々丹波の人間も人吉の人たちとこれから未来に向けて手を携えていきたい、と思っている。

さて、建立委員会の進藤凱紀会長は、母校の柏原高校に20年間務めた人。若い頃から球溪と柏原の縁に思いを馳せていたものの、顕彰事業の実現にはなかなか思うようには至っていなかった。しかし、同じ思いを持つ先輩の山名康之氏（山名酒造会長）が昨夏急逝され、その偲ぶ会の席で仲間に提案。共感した我々7人が歌碑建立実行委員会を設立し、実行に踏み切ることが急きょ決まった次第である。

歌碑の建立には検討すべき課題が幾つかあった。①目的・趣旨②資金③場所④規模・仕組み⑤完成後の管理などである。

①については、犬童球溪と丹波柏原、「旅愁」にからむ逸話を後世に語り継ぐとともに、観光資源としても地域振興に役立てられる。②では、こうした縁を広く知ってもらうためにも、丹波地域一帯から協賛募金を集めて気運を盛り上げては、ということと一致。③は当初、球溪の旧居（現観光案内所）そばの柏原八幡宮の麓を希望していたが、神社側の事情もあって、元柏原高等女学校の校舎を利用したたんば黎明館の道路向かいにある約20坪の市有地を選定。隣地に田捨女関係の句碑が並んでいて、ちょっとした歴史、観光スポットになっている所だ。現地の検分に行った際に谷口丹波市長がちょうど黎明館から出て来られたという偶然も手伝って、いきなりの直談判で貸与の快諾を頂いた。

また④では、鳥取の郷土の詩人、高野辰之を顕彰する同市・久松公園の「ふるさと」歌碑を参考に、音源を併置してス

イッチを押せば、曲が流れるシステムにしよう。また⑤は、費用も準備して丹波市観光協会に預託することに。そして今年5月1日、新しい年号の初日を落成式の予定日に設定した。

鳥取市の歌碑の設計図、建立費、維持管理費などについて同市役所の協力を得て、これらの情報を丹波に持ち帰り、信頼する北山石材会長を囲んで計画を練った。趣意書と寄附依頼書を同封し、千余通、柏原高校柏陵同窓会員、建立委員の知人縁者、地域の法人、病院、医療機関、各種団体等々に送った。丹波新聞がこの企画を大きく取り上げて掲載して頂いたのもありがたかった。地元のみならず、京阪神、関東、九州等に在住する多くの丹波出身者の方々からも、協賛の申し出を頂き、胸が熱くなるようなお便りも多数頂いて活動の励みになった。

FM805たんば放送にも出演させていただき、各種団体の会合(ロータリー、

商工会、同窓会など)でも時間を頂いて協賛を依頼した。その甲斐あって、締め切りの3月末日には、ほぼ満額の五百万円を上回る協賛資金が集まった。

設計、施工は全面的に北山石材に請け負って頂いた。会長は「こんな大事業をやらして頂けるだけでも名誉なこと。採算を度外視して協力する」とまで言って、最大限の尽力をして頂いた。

主碑の巨石は数10キロ離れた山腹から運び込み、120センチ角の磨き黒御影石を嵌め込んで、委員の1人である能書家の大槻佐知子女史が歌詞を逞しく繊細に揮毫し、それを北山晶紀石匠が力強く彫り込んだ。また副碑を2基建立し、協賛者(個人、団体)五百数十人のご芳名を全て刻印した。

音響施設は大手の業者の見積もりが想定外の高額で、一時は設置をあきらめかけたが、会員のついで地元建設会社の技術者が、見事なものを予算内で創作建

造してくれた。

音源は地元のコーラス団体、童謡唱歌を広める会の10数団体、参加希望者など70数人が何度も集まって練習し、1、2番を斉唱で吹き込んだ。

そのほか、様々な雑事のため3日にあらず会議を開き、かくて各委員一致協力して、疾風怒濤の半年を乗り越え、令和元年5月1日、「大童球溪〃旅愁”記念碑落成式」を迎えたのである。式には協賛者ら200人以上の方々に集まって頂き、感動の大合唱が響き渡った。

柏原高校の正門にほど近い場所に確と佇まいする旅愁の碑。その前をかつての蛮カラ生徒の後輩たちが毎朝通り過ぎるのを、球溪先生もきっと優しく見守って下さることだろう。大勢の人々のご厚意とご支援に支えられてこの歌碑を完成できたことを、衷心より感謝申し上げます。

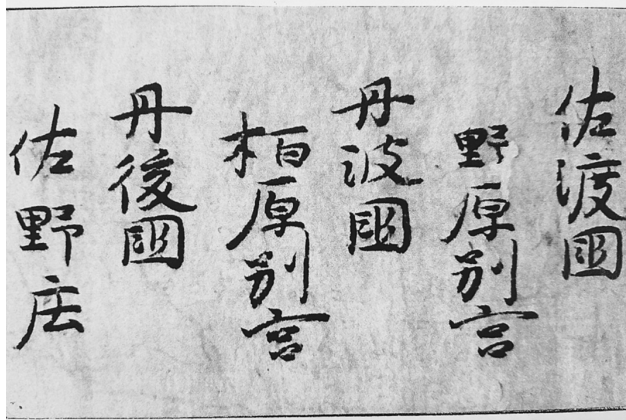
(医療法人社団赤松医院理事長

春日町在住)

# 「栢原」が「栢原」になった謎

誤記は聴覚からも？

元栢原高校教諭 岸名 経 夫



岩清水八幡宮の文書にある「栢原別宮」の文字

古来、栢原の地はヒノキ等の常緑樹が多く生えていた栢原の地であり栢原八幡神社は平安時代（1024年）に京都の石清水八幡宮から、「栢原別宮」としての名称を贈られたことになっている。それ以来、栢原を「かやはら」と呼んだか「かいばら」と呼んだかは不明だが、天正年間（1575年）の文書では、すでに、「かいばら」と呼ばれていたようである。余談だが、岡山市北区に栢谷という地名があるが、ここも「かいだに」とよみ、広島県上下町にも栢原産業さんがあり、（かいばら）と読まれている。さらに、朝日新聞連載の、宮部みゆきの、

『荒神』と言う小説の第一章、『逃散』のところに、「この際、お前も栢原（カイバラ）様に願ひ出て、云々とあり、また、丹波市山南町にも栢原さんがおられ（かいばら）とお読みしている。、そこかしこに、こういう読み方があるようだ。

「前の織田3代」「後の織田10代」に渡って「栢原藩」として、その名称はゆるぎなく続いてきたのである。なぜ、明治維新前後を以って突如、「栢原藩」になってしまったのであろうか。織田藩政日記によると、栢原藩知事織田信親は、明治3年（1870年2月29日）に「栢」から「栢」に改め申し出、以後、この字を用いることになった。という。

歴史ある名称を、突然、自ら変更を申し出るなど、その主旨不明であり、先祖および地域住民に対して示しが付かないのではないのか。藩主といえども、一個人が古来の地名をにわかに変更するな



ど、許されるものではない。

さて、発明、発見などというものは、古来より、偶然から生まれることが多々ある。私の予断に基づく私見によれば次のようないきさつがあったのではないかと、思考するものです。明治新政府はなによりも世界の列強に追いつくべく、富国強兵、殖産興業にいたる、前段階で、まず国内整備の必要性を強く感じ、大久保利通内務卿を中心にしてまず内務省を設立し、その傘下に、勸業、戸籍、通信、地理等々、諸寮を置き、国内整備を図り、早くも明治3年には大まかな整備を終え、明治6年にそれが集大成されたのである。

その作業のさなかにあつて、新政府が苦慮したのは、人材の運用であつた。各藩の寄り合い世帯であり、各寮（部局といつてよい）では、かなり短兵急に物事が運ばれていったことは、想像にかたくない。地理寮、戸籍寮などはわずか、三

ヶ月でその作業を終えたらしい。さて、地理ないし戸籍作成の現場に目を投じてみよう。かなりただだっ広い舎屋の中で、九州訛りの強い連中や関東諸藩から急遽選出された官吏、公僕たちが、2、3人づつ、チームを組んで、昔からの、資料をつき合ひし、——たとえば一人が資料を呼び上げ、一人が書き上げ、もう一人が整理していったのではないだろうか。訛りの強い連中が集まつた中で、「栢原藩」のところへきて、そのときの読み手が、「栢原」はキヘンに「ひやく」と発音したとしよう。そのとき書き手は、キヘンに「はく」と聞いたとしても不思議ではない。大部屋ゆえの喧騒や他の藩の者には「栢」よりも「柏」のほうがなじみが、あつたのだろう。「栢」と記入して、地理、戸籍等の完成を見たのではないか。

もう一つ、考えられるのは、芭蕉の奥のほそ道の冒頭の有名な、「月日は百代

の過客にして・・・」の読み方が（つきひはハクタイのクワカクにして）となつていたらしい。その時の読み手が、百を「ハク」と意識して読んだか、読んでしまい、書き手のほうは、「百」を「白」と書き入れてしまったとも、推測されるがいかがなものだろう。言葉の変遷、誤記はphoneticの面からのアプローチも大切と思うところでは。

中央政府から「栢原藩」へ原図もきたと思われるが、「栢原藩」は、それを見てびっくりしたであろう。祖先伝来の「栢原」が「栢原」に変わってしまった。当然ながら早速誤りを訂正しよう申し出たであろう。しかしながら、今と違って、電信のシステムが全国規模で完成されていらないような状態（因みに、電信の始めは、明治2年（1869年）、電話は、明治10年）では、全国的に訂正が図れるわけがない。物事を急ぐ、政府、内務省は「栢」は「柏」の俗字であるとい

うことや事のいきさつを斟酌して、この書体で涙を吞んでくれという程度のことを事後通達で出してきたものと、推察される。弱小藩ゆえの悲哀である。

どうもこういった経緯が、私は、案外、ことの真相に近いと思っではいるのですが、そこで、傍証がほかでもあるのではないかと探してみました。我が家の庭に、サロベツ原野で20数年前に求めた、紫紅色のハマナス（ナス科ではない、正しくは、ハマナシ（バラ科である）が咲いております。この花木はご存知のように、日本海側では、島根県以北、太平洋側では茨城県以北の、海岸砂地に自生、初秋に熟する果実は同じくバラ科のナシに似ていて、ナス科のナスとはおよそ無関係。現在もハマナスと慣用されるのはハマナシの東北訛りが通用語になっているということを知りました。誤記の発生は視覚によるものもとより、案外聴覚によるものも多くあるのではないかと思

われますが、諸賢のご批判を仰ぎたいと思っております。

最後になりましたが、織田信親が名前変更を申し出た明治3年2月29日、うるう年の29日の日付も織田藩のせめても

の、憂さ晴らし、がこめられているというのは、少しうがちすぎだろうか。この拙文が歴史秘話ヒストリアの一端にもなればと思っではいるところです。

（柏原町在住）



# 植野氏の思い込めた美術館

高い志を受けて設計

常任理事 清水昭景

平成三年四月末、水上町議会議員 西田正敏氏から電話がかかってきました。

「ジャパンエンバ植野藤次郎会長が会って話がしたいので、芦屋奥池の自宅へ来てほしい」との内容でした。



植野記念美術館竣工式であいさつする植野藤次郎氏

さっそく西田議員と同行し、想いを語られました。水上町西中出身の会長は、

私財を投じ収集した美術品と共に美術館を建設し、水上町に寄付をしたいと熱望され、水面下で西田議員を通じ具体策が練られていました。

当初はある著名な建築家によってイメージプランを作成されていると話されました。その様な時に平成三年四月二十五日発行の丹波新聞に掲載された、チェコ・プラハに合弁で建築設計事務所の会社設立の記事を読み興味を持たれ、話を聞きたい

と面談の運びとなりました。

植野会長は八歳の頃から天産物を大八車を引きながら商いを始められ、十六歳の時に台湾に渡り、貿易の仕事に従事、世界各地を訪れ、プラハの春の時は旧ソビエトの戦車の進入を目の当たりにされたそうです。中国上海では大和ホテルを常宿とされ、中国各地で毛皮を仕入れ、事業を拡大して行かれました。

景德鎮にも足を運ばれ、陶器類を始め美術品を店ごと全品購入され、大量に輸入されました。中国は偽物が多く、店丸ごと購入した内につか二つ本物が有れば良いと言われ、美術品は鑑定家に委ねられました。パプアニューギニアにも探検隊を二度派遣され、民族美術品の収集にも努められました。

財団法人植野アジア芸術文化振興財団を設立され、奥池のエンバ中国近代美術館において、常設展示され、若手芸術家の育成に尽力されました。ついては、「文



建設中の植野記念美術館（1994年）

化に触れる事を通じて、自分の器が広がったと思う。だから自分を育ててくれた郷土に美術館建設を計画しているので、計画案を提出してもらいたい」との依頼でした。

氷上町西中地区は四神相応の地相をし

ている土地なのです。と私は説明を始めました。「北に安全山・甲賀山、東に清流加古川が流れ、西に葛野川、南に広がる大地、この様な地相を有する地は氷上郡で唯一氷上町西中だけなのです。この地で育まれる人々の気風は地元で出会う

事が無くても、台湾で商売上出会うとか、パリで出会うとか、上海で出会うとか、海外に雄飛される新進気鋭の方が昔から多く育つ土地柄なのです。会長はその様な土地に生を受けられました。大和ホテルを常宿とされていた思い出と、上海租界、浦東地区の石造洋風建築の建物を目にされ、アジアで最初に感じるヨーロッパは上海租界の石造建築群なのです」。このように話し、会長の若い時代に雄飛された思い出の石造建築を提案させて下さいと申し上げ、了承されました。

さっそくプラハの建築事務所において、一ヶ月程で基本プランを作成し、提案致しました。財団内で前述の建築家の案と私の案と二案で検討され、理事の芦尾副知事の推選もあり私の案が採択されました。

平成元年から勸兵庫県長寿社会研究機構で一緒に理事をしていた縁もあり、私



の人柄を話され、植野アジア芸術文化振興財団の他の理事も安心され、快諾して頂いたと後日会長から伺いました。

六ヶ月程で本設計を完了し、請負は地元企業J B 榊由良工務店・榊和興住建・辻工務店、石材工事は榊数内石材店と全て氷上町の企業で工事を担当致しました。

工事着手金として一億五千万円、芦屋の料亭で銀行員3名が一時間半かけての金勘定、会長以下西田議員・工事関係者一同その光景を見ながら酒を飲む。後にも先にも長い設計人生を通して、このような現金払いの体験は初めての事でした。

石材の花崗岩は中国恵安の石切場数ヶ所を見て回り、色調が揃う山全山を買い取り、加工が始まりました。鉄筋コンクリート造4階建、延床面積一八二六・九七平方尺。躯体工事、石造工事は中国福建省福州市の石工、将達明氏ら十五人。将さん一族は北京飯店や周恩来記念館

の石造工事を手掛け、中国第一級の技術者として力を振るっている。通訳は市島町山名酒造専務婦人の山名みどりさんが一年半に渡る石材工事の同時通訳で言葉の壁もなく、工事が進捗致しました。

花崗岩は全て中国で採寸・加工し製品検査を現地で行い、輸入する。人面彫刻など細かいテクスチャーを要するものはデザイン・詳細寸法の図面をその都度送り現地で加工した上で輸入。円柱を撫でもらうと微妙に凹凸があり、手作り加工の手触りを感じて頂けると思う。

高さ9・5m700φの4本円柱は戦後始の石造です。植野会長は展示する美術品だけが美術品ではない。建物も全て美術品。というのが設計の主旨と申され、平成六年十一月に竣工致しました。

竣工式当日、現代美術の重鎮木村先生の挨拶でピカソの絵を引用され、コップを上から横から下から同じように描けば目が三つに描ける。植野記念美術館はど

の方向から観ても正面に観える。将来氷上町の景色に溶け込んでもらえれば幸いと思う。と挨拶され、設計の主旨を理解されていると思ひ感激致しました。

高度経済成長の時代を疾風の如く駆け抜けられた人生の恩返しとして、丹波に市立植野記念美術館を寄贈された高い志、本年二十五周年を迎える事となり、益々地域に愛される美術館として発展される事を心より祈念申し上げます。

(建築家 山南町在住)

# 「植野美術館」市立移行の頃

## 展示室改造・ピアノ設置に奔走

植野記念美術館 元館長 細見 滋 樹

「細見君、4月から美術館に来てくれないかな？」と木村壽彦教育長から声をかけられたのは、2008年丹波市商工会が主催される新春賀詞交歓会の席でした。2004年11月に氷上郡6町が合併し丹波市が誕生しました。合併一週間前の台風により、美術館から上流域の氷上中学校までの住居らが浸水し、沢山の家屋に被害がありました。

合併当時、私は丹波市役所建設部に勤務しており、被災後の地形調査で美術館の地下排水トンネルを潜ったことがあります。しかし階段を上って玄関から建物に入ったことはありませんでした。恥ず

かしい話ではありますが「植野記念美術館の催しものや展覧会など行ったことのない私に木村さんはどうして勧めたのだろう」と半信半疑で返答をためらい、後日に返事をする約束をしてその場は逃れました。

暫く経って、丹波市役所の市長室に呼び出されました。辻重五郎市長から「君は建築や土木関係が詳しいので、石積み建物の美しい美術館を潰さないようによろしく頼む」と言われ、ああそういうことかと思ひ、お引き受けしたのが美術館と私の始まりでした。

館に入ってしばらくすると、館蔵品の

中にパプア・ニューギニアの民族美術品関係が保管されているのに気付きました。過去にパプア・ニューギニアに関する展覧会が催されており、1985年に木村重信さんが、阪大文学部の教授時代にパプア・ニューギニアの学術探検に行かれ、現地の民芸品などを収集された記録がありました。その費用の多くは、美術館と多くの収蔵品を氷上町に寄贈された植野藤次郎さんが用意されたこと知りました。

1986年から竹下内閣が始めたふるさと創生資金の活用で、当時春日町長の村上照雄さんが世界的に有名なコレクションを集め、地元森の中に美術館を造る構想がありました。私は、森の美術館構想の企画スタッフとして携わっていました。

当時は神戸王子公園の南にありました兵庫県立近代美術館に行き、次長の増田洋さんに構想の相談をさせていただきました

した。その折に紹介して頂いたのが阪大文学部教授の木村重信さんでした。千里ニュータウンの自宅に伺うと、玄関の正面に赤や白でペインティングをした木彫りの仮面が壁に掲げられていて、奇妙なお面があったことを思い出しました。後になって植野記念美術館と木村重信さんとの関係が理解できました。

結局、森の美術館構想は実現せず、春日町には文化ホールが整備されました。それから文化芸術の機運が高まり、文化ホールで全国公募美術展が毎年開催されました。木村重信さんには、全国公募美術大賞展の審査委員長として関わって頂きました。

丹波市になっても、審査や展覧は、春日文化ホールで開催されておりました。館長就任当初から、大賞展を美術館で開催する要望が高まっておりました。折しも文化ホールの大改修で、2010年12月に展示場所が美術館に変更となりまし

た。当時の審査委員は、県立美術館名誉館長の木村重信さん、元京都国立近代美術館長内田武夫さん、大阪大学名誉教授の神林恒道さんでした。20年近く芸術・文化関係の仕事にはご無沙汰しており、久しぶりにお会いするとは夢にも思いませんでした。

美術館の郷土常設展示コーナーは、随分前から閉鎖されておりました。また、美術館同士の信頼関係で作品の貸し借りが出来ていた時代が終わり、テロ対策などでセキュリティの強化が必要となってきていました。落書きやスプレー書き込みなどの対策に必要なガラスで仕切れる展示容積が狭いため、大きな美術展の催しが行えませんでした。

大賞展が美術館で恒常開催することになり、展示スペースやセキュリティ、バリアフリー化などの改修が必要となりました。そこで、当時の教育長でありました木村壽彦さんに美術館再生プランを相

談し、辻重五郎市長に予算を付けていただきました。

閉鎖されていた3階の展示室をガラスウォール化して、容積を増やしました。各部屋に作品監視用のカメラを設置し、防犯対策を強化しました。展示ケースも施錠ができるように追加しました。これらの対策によって、信頼が高まり、美術館同士の作品の貸し借りがスムーズになりました。

2階の研修室は、講堂タイプの会議室でした。これも作品の展示ができるようにスライドウォールを天井からレールで吊り下げました。展示内容によってレイアウトを自由に換えられるようにし、郷土作家の展覧会に使えるように大改造を行いました。また、研修会で必要な大型スクリーンやプロジェクター、音響装置などを常設し、講演会や音楽会などに活用できるようにしました。ところが、音楽会を開催するには、ピアノを市内の



大槻佐知子さんから寄贈されたピアノ

楽器店に頼み、ピアノを解体して正面玄関の階段を人力で運び上げてセットしなければなりません。これは大変不便だったため、当時幼稚園や小学校にも出向きピアノを探しましたが、余ったピアノは有りませんでした。

ふと、美術館友の会員の大槻佐知子さんの名が目にとまりました。佐知子さんのお父さんは、黒井の商店街に履物屋を

営まれておりました。お店には妹さんの山本千津子さんがお勤めされており、千津子さんは私の姉と同級生でした。

姉が大槻履物店で私の就職記念に革靴を頼みそのプレゼントを取りに行って以来、佐知子さんにはずっと懇意にしていただいておりました。「そうだ、音楽熱心だった佐知子さん宅には娘さんが使っていたピアノがあるだろう」と思いながら、長女和美さんの嫁ぎ先に立ち寄り、「小さいとき使っていたピアノはどこにありますか」と尋ねたら「実家にそのままある」との返事でした。

早速、佐知子さん宅に出向き、美術館の改装の様子を伝え、ピアノを譲って欲しいと頼みました。「ええ、いいわ。役に立つなら持って帰って下さい」とあのさっぱりとしたにこやかな顔で返事がありました。2階の窓からクレールン車でピアノを吊って降ろし、美術館のロビーに据え付けました。こけら落としのミュー

ジウムコンサートを2011年7月31日に開催しました。「夏の日の思い出」の演奏会は、柏原町出身のピアノリスト多川響子さんでした。その後、ピアノのおかげで多面的機能を持つ美術館の利用が図れ、植野記念美術館を支えていただいている友の会の会員の増加に繋がりました。現在、友の会の会員さんには美術館巡り、展覧会の監視、喫茶、ミュージアムショップ、清掃活動、ワークショップなど様々な活動に協力してもらっております。最近の活動では、60人ほどの友の会員が「うた友倶楽部」に入れられ、会員である元東小学校校長先生の田中なほみさんを講師に毎月1回楽しく童謡や唱歌を歌っておられます。

音楽・美術といわれる芸術文化は、個人に与えるものでなく個人が作品を共感し、それを多くの人々と共有することが心の豊かさや幸せにつながると思います。  
(春日町在住)



# 農業教育はおもしろい

生命への責任感・協力・自主性

元篠山産業高校 校長 岡田邦夫

もうかれこれ数十年前であつたらう

か。「今、農村はおもしろい」と書いたワンボックスカーが走っていた。まだ若い農業青年であつた彼に対し、農村・農業への意気を感じながらも、世間ではまだ、あまり理解はされていなかったよう

に感じていた。

あれから半世紀以上過ぎた。農業も、農村も、そして地域も変遷してきている。私も農業高校で38年間農業教育に携わり、6年間は高齢者大学で園芸担当として勤務してきた。



北上高校に勤務していたころ、「勤労体験実習」として北海道の上士幌町に生徒引率として参加した。他の高校は、観光地見学やスキー実習として修学旅行を実施していた。北上高校では1週間農家に宿泊して農業実習を体験するという特色ある取り組みをしていた。

午後5時ころだったろうか。放牧していた120頭ほどの乳牛を牛舎に入れるときに出会ったオートバイに乗った農家の若い人が牛を追い込んで帰ってきた。白樺の木々なかを牛が南西方向から20頭、30頭と運動場に入ってくる。運動場に牛が押し寄せ、土埃が舞い散る。中にはモウモウと鳴き声を上げる牛もいる。2人の生徒が主人とともに大きな牛に向かって進み、しっかりと頭絡（とうろく）を捕まえ、1頭ずつ牛舎に連れていく。終われば、また、引き返し、何の恐れもせずに次々と牛を捕まえて行く。

北海道の牛は学校の牛よりもはるかに大きい。しかも牛鼻環がない。機嫌の悪い牛であれば、生徒の力では手に負えない。私は何とも言えない感情に襲われ、牛を引き連れていく2人に何度もシャッターを切った。私には、2人が眩しく、光り輝いて見えた。白樺越しに差し込んでくる夕日の日差しよりも眩しく、北海

道の大きな牛よりも大きく見えた。

また、高校入学した1年生の「農業基礎」の授業を担当した時の話。農業体験のない生徒に対していかに興味・関心を持たせ、今後の農業学習につなげていくかをねらいとする授業であった。トマトを10本ずつ栽培。畝立て、植え付け、支柱づくりから日々の管理すべてを生徒各自で担当させていた。昼休みや放課後の時間にも圃場に来る生徒が次第に多くなっていった。6月後半に収穫したトマトを持ち帰らせた。

夏休み前に開催されていたPTA地区別懇談会の席で、ある母親が「今までトマトを一切食べなかった息子が、『自分で作ったトマトだから』と言って初めて食べました」と話してくれた。自分が作ったトマトだからと言って食べたということ、本当に嬉しかった。

同じく長野県での勤労体験実習の生徒の感想である。「農家の人はみんな朝早

くから仕事されていたし、子どもも日曜日には手伝っていたし、みんな協力していたというか、一体感があるように思いました」と。働く場所と生活の場所が一緒である農家では当然のできごとが、生徒にとっては新鮮に感じたようだ。共に働き、食事する。忙しいときにはお互いにカバーする。仕事と家庭が一体と なっている農家の生活を対比し、家族、絆についても考える機会となっていた。

農業教育には「農業を学ぶ」と「農業から学ぶ」の2つの側面がある。前者は、農業の栽培技術、知識を学ぶということ。後者は、命に携わる責任感、お互い助け合う協力の大切さ、自主性などを育成することであり、農業教育の大きな効果ともいえる。

以前の農業高校は、男子が大半であった。しかし今日、約半数は女子が占めている学校が多い。牛、豚や鶏を飼育する

畜産科でも女子に人気がある。命に接しながら、手をかけた分だけ応えてくれるという学びの場に多くの若者が興味・関心を抱きつつあるのではないだろうか。家庭菜園を始める大人が多くなっていること、非農家出身者で新規農業就労する若者の増加などの流れもまた同じといえよう。

農業教育は、作物の栽培や牛や豚などの飼育など、生命あるものに携わりながら学ぶ手法であり、生徒に学ぶ力を育む機会が多く存在している。牛を恐れずに牛舎に入れていく生徒、一度も食べなかったトマトを食べた生徒、家族の在り方を感じた生徒……。農業教育の場には数多くのドラマがある。農業教育はやはりおもしろい。

(春日町在住)

# 人の琴線に触れ得て感激

60歳過ぎ独学で始めた油彩画

メガネ時計・タムラ 店主 田村英夫

「長男が大学へ行かないのに、弟が行くことはない」と父親が放つ言葉。時は1965年。

大正生まれで第二次世界大戦に出兵、戦場で幾度となく死の恐怖を味わい、その後、シベリヤ抑留4年を経て帰国した



父。血気盛んな青春時代の全てが歪んだ人生だったからなのか、昭和初期からの封建的な家族制度や男尊女卑が引き継がれた我が家長の信念は幼少時代の私を縛りました。現在なら幼児虐待と判定される程のスパルタ生活指導の365日でした。戦争の壮絶な体験が父の生涯を支配し深いところまでキズを負っていて、後々まで癒えなかったのだろうか？（現在のPTSD？）と今なら理解も出来るのですが、大学進学を望んでいた当時の次男坊の私にとっては経済的な理由での説得ならともかく、実に理不尽な扱いだと感じていました。

私は小学生の低学年の頃から絵を描くことが大好きでした。半世紀以上経た今でも当時の写生時間の折々に描いた絵の内容も覚えていられるほどのです。中学生になれば絵画に対する興味も増幅し、成績も評価も満足出来るものでした。そんな時期、美術の先生の指導の言葉が「美術大学を目指したらどうだ！？」と。そして高校時代は進学コースで美術授業も選考し、顧問の先生には特別に目をかけて頂いておりましたが、冒頭の如く父親の理解も母親の援護もなく、美術学科志望どころか進学をも断念した経緯があります。

そうして社会人となってからは、いつかは美術に関ることが出来ればとの想いを持ってはいましたが、1970〜80年代の高度成長期の最中、その勢いのままに仕事や遊びも忙しく、日々24時間の生活は休憩する間もなく目まぐるしく過ぎて行きました。それでもデッサン程度の



後援会



若い広場

制作は試みてはいたものの、本格的に制作活動するまでには至りませんでした。「人は時折、過去の誘惑に振り返り、そしてそれは美しく輝いて見えるもの。」と云われます。何かやり残したものがあるので、と思い始めたのは還暦が目前に

迫った頃でした。そんな折、自治会の執行部任務を受けたのを機に地域社会に携わることと共に他の事でも前向きに取り組めればと思い、望んでいた油彩画を始めることになりました。正に60歳を過ぎ

て描く様な環境の中、とにかく早く追い付け追い越せの精神で、毎日の様に仕事終了後は日付が変わる頃まで筆を握っておりました。時には夢の中でもデッサンをしたり色合わせをしたりと、とにかくストイックに猛スピードでの制作活動でした。

しかし、ただ技術的に進化することを目的とした訳ではなく、好奇心を失わずに新しいことに挑戦する、他の人と違う部分を磨き上げていくとやがてそこに、品性が生まれてくるのだとの信念で懸命に精進致しました。その甲斐もあってか、数か月目でマイナーな



絵画展に入選し、すっかり有頂天で画家  
気取り。調子に乗り他市の絵画展から全  
国公募の絵画展やらと怖いもの知らずに  
我武者羅に挑戦したものです。

具象画で写実を基本とし、モチーフを  
決めずに風景、動物、人物、花々に物々  
と何にでも挑んで来ました。開始から今  
までに1週間以上、筆を止めたこともな  
く、常に頭には画像が浮かび色合わせを  
していて、病的なほどに集中して来まし  
た。そうして数々の入選入賞を重ねて、  
気が付けば10年が経ち、時は平成最期  
年になっておりました。

以前から私の絵を認めて頂いていた方  
の推薦で、丹波新聞社に於いて本格的な  
個展を開催する運びとなったのです。恒  
例の柏原「厄除祭」に併せての開催で、  
作品40点余り（油彩画4号〜100号）  
を展示。地元や京都、大阪等の遠方から  
の知人友人も顔を見せてくれたのを含  
め、ご来場者数が3日間で600名を超

える賑わいとなりました。予想以上の大  
盛況に驚嘆し、感謝感激致しました。

ご高覧の評価を色々と聴かせて頂いた  
中で、女性の方から「観ていると涙が出  
そうになりました。感動をありがとうご  
ざいます。」の声。その方の心の琴線に  
触れたのが、どの作品かは定かではあり  
ませんが、私の存在が誰かの心に  
幾らかの栄養を与えているのだと感じ、  
心底嬉しく思えました。このような機会  
を与えて頂いた方、開催ご協力者や会場  
関係者の方々に、今もなお頭の下がる思  
いでおります。

何万年と気が遠くなるほどの人類の歴  
史がある中で、わずか半世紀の間に化  
学、産業、医学のテクノロジーはめざま  
しく発展して、確かに生活は非常に便利  
になりました。しかし、決して人間が豊  
かになった訳ではありません。せち辛い  
世の中で、労働の捉え方も変わりました。  
汗水垂らし懸命に身体を動かす生産

性より、机上で指先と頭脳を動かす方が  
優る利益追求だと評価される現在です。

高度に成長した経済、文化、繁栄の現  
在には「心」はそぐわない語句の様です  
が、人間の五感を研ぎ澄ませた判断や行  
動、価値観や理性の根源にはやはり「心」  
があります。

人間には文化と云う精神の栄養が必要  
です。幸せを感じる豊かな心を育てるた  
めには必要な栄養素なのです。過去を浄  
化し昇華して、その向こうに新しい極限  
の景色を描きはじめる。芸術の世界はい  
つまでも終わりのない旅、これから先も  
思いを込めて描き突き進んでいきたいと  
思っている次第です。

（春日町在住）

# ウィーン楽友協会での第九演奏

日本からの参加者率いて

ソプラノ歌手 足立さつき

音楽の都・ウィーン。毎年元旦の夜、日本でも放映されるウィーン・フィルのニューイヤール・コンサートが催される楽友協会ホールのある街。また、そのホー

ルは佐渡裕氏が首席指揮者を務めるトーン・キュンストラー・オーケストラの拠点でもある。小澤征爾氏が音楽監督として活躍したウィーン国立歌劇場や、コン



サートやオペラが楽しめる劇場やサロンが多く、今も観光地としての人気も高い街。そしてこれまで、数多くの音楽家、作曲家たちが活躍した街だ。

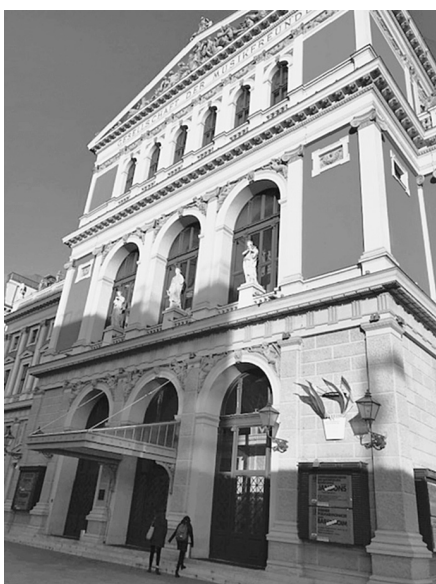
バロック時代、ヴェネツィアで活躍したヴィヴァルディ（四季）を作曲したことで有名は、最晩年、落ちてきた人気を取り戻すべく、ウィーンを目指し

た。1740年のこと。しかし運悪く、彼の最大のパトロンであった時の皇帝カール6世（マリア・テレジアの父）の死去により、ウィーンは1年間の喪に服すこととなり、失職したヴィヴァルディは失意のうちにウィーンで亡くなる。その場所は、ウィーン国立歌劇場のすぐ北側、今はホテルザッハーとなっている、音楽家用の宿舎だった。ホテルザッハーの入口そばには、その証拠のプレートがかかっている。

その16年後にザルツブルク（ウィーンからは電車で3時間ほど）で生をうけたモーツァルト。6歳のころから、父親とともにヨーロッパ各地を演奏旅行で訪ねまわっていた彼は、いよいよ25歳で地元ザルツブルク司教と決別し、音楽の都ウィーンでの活動に踏み切る。当時音楽家は、教会あるいは貴族の依頼のもとに成立した仕事であり、その依頼者と決別し、全くのフリーランスで活動すること



日本からも参加して演奏された「第九」



ウィーン楽友協会の建物

は、至難のことであった。しかし彼は、  
ウィーンでその才能をさらに開花させ、  
次々と現代に残る名作を作曲していく。  
「アイネ・クライネ・ナハト・ムジーク」、オペラ「フィガロの結婚」「魔笛」

など、今も世界中で演奏される曲を書いた。  
同時代、モーツァルトと14歳違いの  
ベートーヴェンもウィーンで活躍した。  
ドイツのボンで生まれた彼は、早くから  
才能を開花させた。16歳の時旅に  
出たウィーンで、モーツァルトと  
面会したとの逸話もある。それが  
真実であれ伝説であれ、同じ時に  
偉大な2人が、今も景色のあまり  
変わらないウィーンの街角ですれ

違っていたかと想像するだけでもトキメキが止まらない。「運命」(第5番)、「田園交響曲」(第6番)、そして「第九」もウィーンで初演されている。  
2019年3月5日、ウィーン楽友協会の黄金ホールにて、ベートーヴェンの第九交響曲が演奏された。このコンサートは、2014年3月から、東日本大震災復興支援として、2018年3月のコンサートまで5年間続き、今年(2020年)は日本オーストリア友好150年記念として

「平和のシンフォニー」と冠されたコンサートとなった。オーケストラはウィーンのプロオケ、合唱団員は現地のアマチュアメンバー。そこに日本からの参加メンバー、200名ほどが加わり、大合唱団となる。私は日本側の合唱指導の一人と

して関わり、2015年の第2回目から今年で5年目の同行となった。

冒頭にも書いたように、ウィーン楽友協会ホールといえば、音楽ホールの中でも世界最高の響きを持ち、歴史や格式の高さは、まさに世界最高水準。なんといっても、かのウィーン・フィルが毎日のようにそこで練習し本番を行っている場所なのである。そのホールで第九が演奏できるといふ、合唱に関わるファンからすると垂涎もののコンサートであることは間違いない。

私は現地では、リハーサルの見守りを受け持ちのメンバーの直前準備の要員。リハーサルは、地下のガラス・ホールという場所で、日々の練習や、小さなコンサートも催される空間。200名近い日本側のメンバーに現地のメンバーが加わり、背の順で並んでいるお隣同士、ドイツ語を話せる人も話せない人も、笑顔でのコミュニケーションに努める。マエス

トロの音楽練習が始まれば、皆、一心不乱に声と心をついに、これまでの自分たちの練習成果を出そうと心がける。いくらアマチュアだからといっても、楽友協会黄金のホールで演奏するからには、恥ずかしい演奏を披露するわけにはいかない。

私も直前準備の練習時に伝えるための注意事項をメモしながら、リハーサルを見守る。昨年までと同じ手順とはいえず、その都度参加メンバーも違えば、指揮者も違い、音楽的な指示や、注意事項も異なってくる。短時間でわかりやすく、なおかつ効率よく仕上げるための言葉選択などを頭に巡らせた。

いよいよ本番当日。昨年の同じ時期はとても寒くて、本番の日には5センチほどの積雪もあったが、今年はとても暖かく穏やかな晴天。客席の平土間席（1階席）で、友人のバス歌手平野和氏（ウィーン・フォルクスオーパー専属）、このコ

ンサートのためにウィーンに来てくれた、フィレンツェ在住の中川真貴さん（丹波市山南町出身）とともに、メンバーの晴れ姿を見届けた。

終演後、ホールから出たところで雨が降りだし、その後本降りのようなことが、打ち上げのパーティーが終わったころには星空が見えた。ウィーンでの初演から195年、日本では鳴門市での初演から101年、ベートーヴェンの想いは様々な形で受け継がれ、再演され、音楽を愛する全ての人に、喜びを与える。ウィーンの街の魅力を改めて感じるとともに、偉大な音楽家たちの軌跡に感動し、ウィーンでの数日間を満喫できたことに感謝。

（春日町出身、東京都在住）



# 古希少年、ネパールの山に挑む

## エベレストからアンナプルナへ

（株）岡田製作所 社長 岡田博美

昨年2018年4月にネパールのナム

チェバザールを登りました。登山とは全

く縁のない私がどうして山登りをはじめ

たのか、そのきっかけと登頂に至るお話

をしたと思います。

私が山に登るきっかけは丁度、自治会

長になった時のことです。自分の生まれ

育ったふるさととは山に囲まれた春日町大

路、人々がふれあい、恵まれ

た自然に抱かれたこの環境こ

そが財産であり、山をテーマ

の事業で地域を活性化しよう

と思いついたのがはじまりで

した。

登山は経験のないド素人で

ありましたので、専門家のア

ドバイスをお願いしようと思

い、東京の友人、元井さんを

通して、三浦豪太さんに相談を持ち掛けました。

三浦豪太さんはご存知の通り、三浦雄

一郎さんのご子息で、ミウラドルフィン

ズのプロスキーヤーで数多くの登山も経

験されている有名な登山家であり医学博

士でもある方です。その三浦豪太さんに

大胆にも大路にお越し頂いてご講演をお

願いできないか友人を通して依頼しまし

た。すると三浦さんからは快く承諾を頂

き、三浦豪太講演会の開催が2017年

9月3日に決定する運びとなりました。

これが私の登山の始まりであり、地域活

性化への取組みの始まりでもありまし

た。

2016年11月に大路の活性化事業を

スタートさせ、初年度は、のこぎり山(の

こぎりの歯の様に登り、下りの多い山)

開発隊と銘打っての登山から始めること

にしました。

2017年9月3日の三浦豪太講演会



エベレスト（右方、雲がかかっている）を臨む



三浦雄一郎さん（右）と

には地域の方々が多数参加して頂き、盛況のうちに無事終了しました。懇親会では山に関する「エベレストの話」や「三浦雄一郎さんのエベレスト登頂の報道を見ました」等々、様々な話題で盛り上がり皆さんに満足して頂きました。

地元のこのぎり山の踏破では、山を登りながら、三浦豪太さんがセブンサミッツ7大陸の最高峰に登る話を思い出しているうちに、まるで私もその場で一緒に山登りをしているような錯覚に陥り、すると私が30代の頃、スイスのアイ

ガー北壁（3900m）に登山電車で登った記憶が不思議と思い出され、その当時感じた高山病らしき思い出までもが同時に蘇りました。これがぼんやりと登山への興味を抱ききっかけだったかもしれせん。

この講演会とのこのぎり山踏破を縁に、ミウラドルフィンズとの交流も始まり、2017年の年初にはお父さんの三浦雄一郎さんにもお会いすることができ、益々登山との縁が深くなり興味も湧いて参りました。

一方、自治会のなかにも山好きなメンバーがいて、のこのぎり山登山も

10数人から30人近くになってきました。

その後、友人の元井さんと三浦豪太さん、貫田さん（行ってQの通称天国じい）はデナリ（旧名マッキンリー山）に登る計画を立てておられ、デナリ登山成功の次はエベレストと目標が大きくなり、どんどんと計画を進めていました。

この旺盛な元井さんらの冒険心に私たちも触発されて「エベレストを見たいな」と子供のような冒険心をくすぐる夢を抱くようになりました。そんな折、友人からエベレストガイドで日本語の話せるネパールの山岳ガイド、デイリ君が日本に来たいとの紹介があり、これも何かの縁と思い、私のところで受け入れることにしました。彼は数カ月日本に滞在し帰国しました。これも後で考えれば不思議な縁でした。

元井さんのグループがエベレストに登ることが決まり、私たちは元井さんらが登っている姿を現地を下からでもいいか

ら見たいという思いに駆られました。その時、デイリ君が帰国する際に言った「カトマンズ空港まで来たら面倒見るよ」の言葉が脳裏をよぎり、「よし！エベレストビューホテルまで行くぞ！」と衝動に駆られながらも強い意志で決心をしました。

ここから、私たち大路自治会仲間の遠征登山の始まりです。メンバーが5人自治会の役員です。しかも役員任期終了と同時に（2018年4月1日）登ろうという大胆な計画です。この時の私たちは少年のようなところで若い血潮が漲るよう、身体に青年の頃の澆瀾とした力が湧いてくるようでした。

しかし突然、私に不幸が襲い掛かりました。2018年1月末にゴルフで腰を痛め歩行すら覚束ない状況になり、さらに病院でのMRI検査の診断結果はヘルニアと狭窄症で手術をしないと治らないと言われ一時は絶望的な気分になりました。

た。先生は「途中で発症する危険性があり、無謀で、保証できない」と登山を反対されました。それでも私は先生の言うことも聞かずに、一大決心し3月に入ってから減量に挑戦です。90<sup>キ</sup>もあった体重をどこまで落とせるか。目標は80<sup>キ</sup>です。

そんな時、2018年3月19日に東京でエベレスト遠征の元井さんたちの壮行会がありました。私は辛うじて歩ける状態になっていたので大路からは私と畑君の二人で参加しました。行ってみると、三浦豪太さんは勿論、今回エベレストに登る登山家の倉岡（エベレスト9回登頂は日本人最多）さん、中島さん（シスパー北東壁登頂）、貫田さんら日本人で世界を代表する登山家、冒険家の集まりでした。

私はその壮行会の懇談の席上、豪太さんに例の腰痛の相談を持ち掛けてみました。すると、筋肉トレーニングでカバ

できると助言と励ましを頂き、早速、大路に帰ってからひたすら減量と筋肉トレーニングの日々が続きました。3月から始めていた減量は、約1か月余りで体重83<sup>キ</sup>まで減らすことに成功しました。幸いにも、筋肉を鍛えたこともあり、杖なしで、足の裏に多少の痺れはあるものの特に気にはならない程まで回復していました。

いよいよ、ネパール出発（2018年4月1日）です。12日間の私たち青年？の冒険のスタートです。最初に体験したのは世界一危険な空港、標高2800mの滑走路が短く崖と山の間にあるルクラ空港です。実際に行ってみると確かに危険ではありませんが、絶景です！こんな素晴らしい景色の空港があるんや！と感動しました。感動も束の間、次はホテルまでの移動です。

悪天候のせいで到着が大幅に遅れ、2600<sup>キ</sup>のホテルまでは夕方5時頃か

らの強行突破のナイトトレッキングです。真っ暗の中、4時間掛かって、やっとのことでホテルに到着です。こんな経験は人生初でした。しかし体調はすこぶる良好で気分はGood。残念なのはお風呂がないこと…。

エベレスト挑戦は、素人集団ですので絶対無理をしない計画で2日間掛けて、最初にナムチェバザールに到着しました。翌日エベレストビューホテル（4000m）へ登山。

途中からエベレスト、ローツェが見える。この高さまで登ってはじめて見える山々…。

その壮大さと荘厳さは、人間が自然と対峙する時に味わう畏怖の念、ちっぽけな一人の人間の存在を通して己に問いかけてくる「我々とはいったい何者か？」そんな精神の高揚を生み出す不思議な感慨が湧いてきました。

結果的に、誰も高山病にもかからず、

無事ここまで辿り着けた達成感で先程までの疲れも忘れて熱いコーヒーを飲む。さらに深い安堵感が身体中に染み渡る。

4月9日にカトマンズに戻ると、元井さんからのメールが入り、偶然にもエベレスト遠征隊と同じホテルであることが分かり、その夜は全員で歓談です。俄か山男の私たちが本物の登山家としかも異国の地で語り合える、こんな幸せな時間を持つことは至上の喜びでもありました。こうして私たち大路登山隊の12日間に及ぶ、ネパール登山が無事終了しました。

この登山から学び得たものは、憧れるところで果敢に挑戦すれば、一切の不安も怖いや恐怖感をも一掃させる、そしてやり遂げた後に味わうこの達成感。人生はじめての感動にも似た経験で、しかも人生観をも変えるということ。人はいつだって、己がこころの命ずるまま自由に生きていけば良い。こうしてこの文章を

綴りながらも、今も熱いものが込み上げてきて、虚脱感と幸福感が全身を覆う。

しかし悲しい知らせがありました。ガイドのデイリ君が2018年9月8日にヘリコプターの事故で亡くなったとの計報に接し、彼と「翌年はアンナプルナに登りましょう」と約束していたのにと、非常に残念でなりません。これも不思議なのですが、実はこの9月8日は偶然にも彼が1年前に大路からネパールに帰国した日だったので。私たちは今、来年2020年に彼と約束をしていたアンナプルナに行く計画を立てています。今はただただ、デイリ君のご冥福を祈り、魂の安らかならん事を願うばかりです。

いま健康に暮らせることが最大の幸せです。見た事のないところ、まだ経験したことのない世界への挑戦はこれからも続けたいと思います。永遠の少年のころで！

（春日町在住）



# 遠いようで近いトルコと日本

意外に多い似た一面

安田 ゆかり



「トルコ」と聞いてみなさんが頭に思い浮かべるイメージは何でしょう。ケバブ？ トルコアイス？ 砂漠やラクダ？ シリアと国境を接しているので危険というイメージを抱かれる方もいらっしゃる

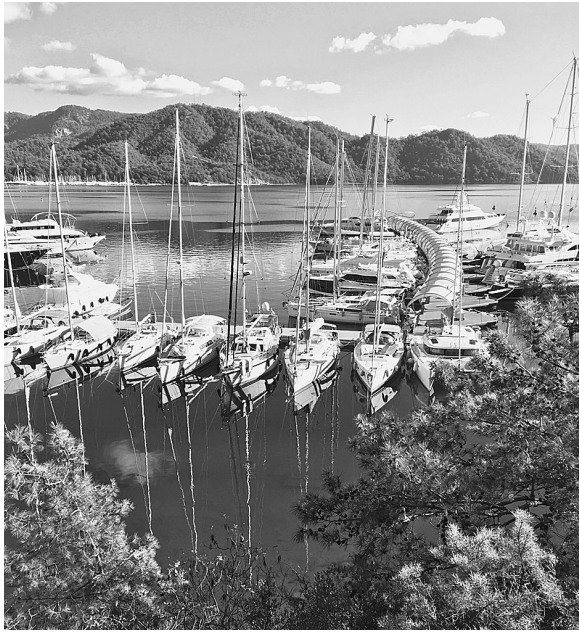
るかもしれません。

日本から約9000キロも離れているため知られていないことも多い国ですが、実は北を黒海、西をエーゲ海、南を地中海に囲まれた海と縁の深い国です。

わたしが住んでいる地中海沿岸のギョジエキという村もヨーロッパではセーリングヨットのメッカとして知られる場所。海と山に囲まれた小さな小さな村ですが、四月から十一月にかけてヨーロッパはもちろん、世界中からバカンスにやってくる人で華やかに賑わいます。イギリス王室の超豪華クルー

ザー（もちろんお忍び）、ロシアの石油王アブラモヴィッチもやってくる場所、三年ほど前にはオスカー俳優ダスティン・ホフマンもこの小さな村の通りを歩いていました、と言えばトルコのイメージも変わってくるでしょうか。

そんな海沿いでは魚料理も豊富です。日本ではケバブが有名で、トルコ肉という印象が強くなりますが、黒海沿岸なら冬はイワシのシーズンは日本に空エリアで獲れるマグロの多くは日本に空輸されていますし、この辺りでもタイやスズキ、サバ、ボラ、ヒメジ、クエ、タラなどはとてもポピュラーな魚です。食べ方は焼くか揚げるので、塩とレモンでさっぱりといただきます。もちろん海から遠いアナトリアの内陸に行くとも魚よりも肉を食べる人が圧倒的に多く、エビやタコなどの甲殻類、軟体動物は「虫」と呼ばれ、食べるなんてものほかと思われれますが、沿岸部エリアならエ



ギョージェキにあるマリーナ

ビ、タコ、イカはレストランでも人気料理のひとつ。そして、魚介類を食べるときにはラクという水と混ぜると白濁する蒸留酒を飲むのが定番です。

またエーゲ海、地中海沿岸ではオリーブオイルやナッツ類、野菜、果物を豊富に使ったいわゆる地中海料理がたいへんポピュラー。生のルッコラやイタリアン

パセリ、ディル、クレソン、バジル、ミントは日常的に食卓にのびりますし、フェンネル、アックেশソウ、ウスベニアオイ、イラクサなど、日本ではハーブとして知られる植物も料理に使われます。わたしが住んでいるギョージェキでは「メネンギチ」と呼ばれる野生のピスタチオの若葉が料理に、実はおつまみのように

食べられますし、トルコ東部では挽いてコーヒーのように飲まれていきます。

ところで、遙か遠い国・トルコですが、日本に似た一面も意外にたくさんあるのをご存知でしょうか。まず、家に入るときには靴を脱ぐのが習慣。欧米のように土足で家に入ったたり、靴のままベッドに寝そべった

り、というのは日本人的に受け入れ難いものですがトルコでそんな心配はいりません。いまはどちらも洋式トイレが当たり前になりましたが、日本の和式トイレとトルコのアラトゥルカと呼ばれるトイレはまったく同じものです。

また現在は両国とも椅子に座って食事をしますが、かつては床に座ってご飯を食べる習慣がありました。トルコでは村の方へ行くと、いまでもイェル・ソフラス（床上食卓）と言って床にクロスや新聞紙をひいてその上にお皿を並べて食べたりします。トルコの公衆浴場ハマムは日本の銭湯に近いですし、トルコも日本も昔は床に布団を敷いて寝ていました。いまでも村の結婚式など、家の庭で披露宴を行うようなところではお客さんがたくさん来るとベッドでは足りないので床に布団を敷いて寝ています。

アジアの東端と西端、距離的にこれだけ離れているにもかかわらず、文法が似

ているというのも驚きの事実です。第一に文章構造が同じ。「わたしは 昨日本を 買った」という語順はトルコ語でもそのままです。ラテン系言語のように

われたことはないでしょう。でもトルコ語なら大丈夫。例をあげてみましょう。

主語・述語・目的語ではなく、主語・目的語・述語の順に文章が作られますし、

星がキラキラ光っている、の「キラキラ」はトルコ語で「プルプル」

助詞や助動詞の付き方も日本語に非常に似ています。また、偶然の一致だと言わ

「赤ちゃん」がすやすや眠っている、の「すやすや」は「ムシユルムシユル」

れています。また、偶然の一致だと言われ

「雨」がザーザー降っている、の「ザーザー」は「シヤクルシヤクル」

トルコ語でも「イイ」ですし、日本語の「てっぺん」はトルコ語で「テペ」、「山地」は「ヤマチ」、「茶」は「チャイ」、

「女の子」がクスクスと笑った、の「クスクス」はトルコ語でも「クスクス」

そして「水（スイ）」は「ス」です。

「おじいさん」がグーグーといびきをかいて寝ている、の「グーグー」は「ホルホル」

このほかにも日本人の気持ちにぴったりとフィットするトルコ語があります。

「小川」がさらさらと流れている、の「さらさら」は「シユルルシユルル」

それは反復語と擬態・擬音語。何かを表現する際にわたしたちがよく使う「キラキラ」「さらさら」「すやすや」と言った

……と例をあげればきりがありません。

言葉がトルコ語には存在するのです。英語にはこういった表現がないため日本人としてはいまひとつ物足りない、そう思

わたしにとっては気持ちにぴったりとフィットする、最も好きなトルコ語の表現

現のひとつです。

遠く離れた国なのに、似ている部分を発見すると親近感が倍增して近いように感じることも多いトルコ。一方で異なる習慣に戸惑って「やっぱり遠いな」とも思ったり。トルコに移り住んで十年。いろんなことに慣れてしまった部分も多いのですが、トイレだけは慣れません。

ああ、なんと快適な日本のあったかい便座。夏場は気になりませんが、冬場の冷たさは寿命を縮めます。トルコの家はセントラル・ヒーティングで家じゅうがあたたく、日本の家に比べてとても快適なのに、なぜかトイレの便座だけはとても冷たい！ トルコには日本のような便座カバーも売っていないので、日本で買ってきてトルコで使っている毎日です。

(氷上町出身、トルコ在住)

# 風呂にカルチャーショック

でも裸のつき合いは深める

氷上高・氷上西高ALT

Jovald Gavin Henriksen



ケープタウンのテーブルマウンテンで

丹波市に住んでいる10人のALTの一人です。「なぜ日本に来ようと思ったのですか。」とよく聞かれます。もうほとんど二年間いるので理由は忘れませんでした。

だけど「なぜずっと日本に住みたいですか」という質問だったら答えやすいです。田舎や山登りや釣りや静けさなどが好きだから、丹波市ほど住みやすい場所はないと思います。来る前は好きになるかどうか分かりませんでした。やっぱり旅行で外国に行くより外国に住む方が不安です。しかし、それは外国語や外国人の心を分かるようになるための唯一の方法です。初めの頃「日本人は大人数の人だ」と言う印象を持ちまし

た。西洋では大人しすぎるのは、人を困らすことがあるので私もちょっと困ったことがあります。そんな時「自分を責めないで」と自分に言ったり、日本の生活を楽しもうという望みをあきらめなかつたりしました。

丹波に来てから地域の人々と会話をするチャンスはたくさんありました。参加すれば参加するほど友達を作るチャンスが増えます。初めの頃やっぱり英語ができない日本人と付き合うのにずっと苦労していました。だから「どうすればいいかな」とずっと考えていました。生活の楽しみ方の一番大事な点は、日本人の友達を作るといふ事だと思っていました。それで友達になるまで色々な人に話しかけました。いっぱい話しかけたから、優しくしたけどたくさんの人に迷惑をかけたかも知れません。

付き合いのポイントは共通点を発見するということだと分かるようになります





黒井城跡で（前列右端筆者）

た。それとよくジョークを言うのもいい  
 と思ったのですが、そんなに面白くて  
 きななかったので、ほとんどやめて厚切り  
 ジェーンソンの「Why Japanese Peo-

ple?」ぐらいだけ使っています。  
 日本人との一番の共通点は明らかでし  
 た。だれでも母国語が大好きで教えるこ  
 とができます。だから一緒にお互い母国  
 の言葉を教えたり教えられたりし  
 て言語の勉強をするのがとてもい  
 いと気づきました。

初めの頃、飲み会にも仕事にも  
 温泉にもいつも小さいノートとペ  
 ンを持って行きました。そして、  
 毎日の生活で教えてもらった面白  
 い言葉のメモをとり始めました。  
 今一年前のメモを読んだら猿が書  
 いたみたいな平仮名の文字ですけ  
 ど、色々面白くて変な言葉があり  
 ます。

例えば、「はだかの付き合い」  
 は英語で「naked communica-  
 tion」と言う訳を覚えてもらいま  
 した。仕事の仲間がゴルフ好きで  
 私もやったことがあるので共通す

ると思いました。それで一緒にゴルフに  
 行ってお風呂に入った時、その言葉を教  
 えてもらいました。「一番目は「チンチン」  
 です。ごめんなさい。またお風呂の話で  
 すけど日本人のお風呂に入りたいという  
 欲求はカルチャーショックでした。ほかに  
 カルチャーショックと思ったことはあ  
 りません。ある日幼い子供がいる友達の家  
 で晩御飯を食べました。

その後子供は私と一緒にお風呂に入り  
 たがりました。お母さんも子供と入って  
 ほしいようでした。しかし、私は丁寧  
 に断りました。私の国では友達の子供でも  
 親戚の子供でも一緒にお風呂に入らない  
 から、びっくりしました。やっぱり「Why  
 Japanese People?」と思いました。数  
 か月後また同じ家族の家で晩御飯を食べ  
 た後、「ジヨビとお風呂に入りたい」と  
 子供がずっと言いました。今度は仕方な  
 くお風呂に入ろうと決めて一緒に更衣室  
 に入って服をぬぎました。すると男の子

が指さして大きな声で「ジョビのチンチンだ」と叫びました。私はすぐ言葉の意味が分かって恥ずかしすぎて死にたいくらいでした。

今それについて考えると「凄いな、日本家庭の私生活も体験できるチャンスがあった」ことは幸せだと思えます。それはロッククライミングをずっとやっていたおかげです。それでロッククライミングが大好きな家族とあって友達になりました。メモにある言葉は言葉だけではなく、とてもいい思い出です。

「なぜ日本に来ようと思ったのですか」。急に理由を思い出しました。実は自分の故郷が好きだったので。私は南アフリカのケープタウン市の近くに生まれてずっとその町で育っていました。ケープタウン市は大西洋とインド洋が交差している半島にあります。サーフィン、日光浴とロッククライミング、ワイン試飲会、ショッピング、トレッキング、

ゴルフ、サファリ、数百のレストランは全部ケープタウンにあります。さらに、親友や家族も私の近くにいたからいつでも遊びに行けました。

やっぱり南アフリカを去るのは難しかったです。しかし、私はキャリアを変わったかったので英語の先生になると決めました。それで外国で英語のALTとして働きながら大学で通信講座をします。そうすると先生として経験を積んだら先生の資格が取れたりします。令和の4年まで丹波にいるつもりです。それから南アフリカに帰って先生の免許をとって日本に戻るかも知れません。ドイツ語とスペイン語も話せるのでEUで教師をする可能性もあります。とりあえず丹波の人々と仲良くして日本語を深く知り日本のことをよく知ったりしたいです。よろしくお願ひします。

(南アフリカ出身、筆者が日本語で記述)



# 藩主をしのぶ織田まつり

監事 足立 壽宏

(表紙の写真も)



(右) 18代織田信孝氏も参加  
(下右) 人気を呼ぶ奴行列  
(下左) 子供武者





丹波柏原織田神社（柏原町古市場）とは「前期織田家」の「織田権現」織田信勝を祭神として祀られており、神名は織田上野介信勝命。

藩主織田家は、「前期織田家」、信長の弟信包（1543〜1614）から始まったが、3代目信勝に嗣子がなく廃絶、一時天領となった後、信長の次男信雄直系の信休が大宇陀（奈良県）より移封されて「後期織田家」に引き継がれた。子孫が小大名でありながら信長直系の血脈を伝えて、明治維新を迎えた。

前期織田家3代目の信勝は寛永七年（八歳）で柏原藩主になり慶安三年（二十八歳）で死去したが、この間、治水開拓、殖産事業に努め、藩民はこれらの功績を讃えて信奉した。

信勝の死後、母がその邸跡（現在の柏原自治会館北側）に霊廟を祀り織田

神社として（1650）創建する。正徳三年（1713）、陣屋を築くこととなり柏原東奥大谷に遷座されその後現在地に再遷座となった。

織田神社は、信勝命日の毎年5月17日に例祭が執り行われている。

一方、これとは別に、織田信長を祀る建勲神社（柏原町屋敷）があり、以前は6月2日の例祭に武者行列が執り行われていた。現在は、10月の体育の日に「織田まつり」として観光客を集めて行われている。

平成30年の織田まつりは織田家の18代当主、織田信孝氏が、谷口進一丹波市長と共に行列に参加された。信包がかつて庇護していたと言われるお市の方と茶々など三人姉妹も加わり、奴、鉄砲隊等々と共に、当時を思わせる大行列は庄巻そのものである。



藩邸前の織田信包像



お市の方娘の三姉妹





# 広告目次

協賛ありがとうございました。(敬称略)

サンキン……………裏表紙	喜 作…………… 91
三協運輸……………表表紙裏	大 和…………… 92
丸十ロッカー……………裏表紙裏	ル・クロ丹波邸…………… 93
まちづくり柏原…………… 76	有田産業…………… 94
武庫川女子大学…………… 77	エス・ディー…………… 95
中兵庫信用金庫…………… 78	サンキンB&G…………… 96
JA丹波ひかみ…………… 79	丹波新聞社…………… 97
敬 愛 会…………… 80	やながわ…………… 98
小曾根病院…………… 81	岡林写真館…………… 98
円 応 教…………… 82	土田商事…………… 99
大地農園…………… 83	大 仏 堂…………… 99
山名酒造…………… 84	オオツキ…………… 100
木 栄…………… 85	赤松医院…………… 100
オーケンウォーター…………… 86	清水一級建築設計事務所… 101
グリーンライフコーポレーション… 87	丹南茶寮…………… 101
オフィスキムラ…………… 88	たんばコミュニティエフエム… 102
富田畜産…………… 89	KABURA 丹波布の店… 102
丹波総合石材…………… 90	関東氷上郷友会…………… 103



## ロマン城下町かいばら

私たち株式会社まちづくり柏原は、地域住民の声を聞き、柏原の歴史文化にあったまちづくりに取り組んでいます。「丹波市らしさ」「柏原らしさ」を大切にし、住民たちによる様々な活動により生まれる魅力によって、柏原を訪れる人や新しい住民を増やすきっかけになると考えます。

私たちは地域開発のプロデューサーとして、多くの人々と連携しながら精力的にまちづくりを進めます。



■テナントミックス事業



■町なみ環境整備事業



■関西学院大学連携事業

代表取締役：荻野吉彦(荻野与作商店 代表取締役)

専務取締役：岡林利幸(㈱オカバヤシ 代表取締役)

常務取締役：土田光一(㈱土田科学 代表取締役)

取締役：土田博幸(㈱土田商事 代表取締役)

：前川隆正(㈱丹波の森ショッピングタウン 代表取締役)

：菊本裕三(きくもとグラフィックス㈱ 代表取締役)

：黒田好信(黒田測量設計㈱ 代表取締役)

### 株式会社まちづくり柏原

〒669-3309

兵庫県丹波市柏原町柏原688-3

TEL:0795-73-3800

FAX:0795-73-3801

HP: <http://www.kaibara.org/>

### 最近のテナントミックス事例 (テナント管理11店、指定管理1ヶ所)

#### ● 工芸の店 KABURA



「中心市街地再興戦略事業」の補助金を用いて空き店舗を改修し、平成29年10月にテナント施設として完成。丹波市に伝わる伝統の丹波布をはじめ、春日町鹿場の竹細工や名塩和紙など、数多くの工芸品を取り扱っています。

#### ● とり料理専門店 ととり



「中心市街地再興戦略事業」の補助金を用いて空き店舗を改修し、平成29年12月にテナント施設として完成。木の温もりを感じるおしゃれで明るい店内は、女性や若い方、ご家族連れでも入りやすくなっています。店長おすすめメニューはこだわりのつくね。

**MUKOJO  
ACTION**

2019-2039

# 日本の女子大を、更新しよう。



■中央キャンパス



■上甲子園キャンパス（建築学部）



■浜甲子園キャンパス（薬学部）



■アメリカキャンパス（ワシントン州スポケーン市）

## 大 学

- 文学部（日本語日本文学科、英語文化学科、心理・社会福祉学科）
- 教育学部（教育学科）
- 健康・スポーツ科学部（健康・スポーツ科学科）
- 生活環境学部（生活環境学科、情報メディア学科）
- 食物栄養科学部（食物栄養学科、食創造科学科）2020年4月開設予定（届出中）
- 建築学部（建築学科、景観建築学科）2020年4月開設予定（届出中）
- 音楽学部（演奏学科、応用音楽学科）
- 薬学部（薬学科、健康生命薬科学科）
- 看護学部（看護学科）
- 経営学部（経営学科）2020年4月開設予定（設置認可申請中）

## 短期大学部

- 日本語文化学科
- 英語キャリア・コミュニケーション学科
- 幼児教育学科
- 心理・人間関係学科
- 健康・スポーツ学科
- 食生活学科
- 生活造形学科

## 大 学 院

- 文学研究科（日本語日本文学専攻、英語英米文学専攻、教育学専攻、臨床心理学専攻）
- 臨床教育学研究科（臨床教育学専攻）
- 健康・スポーツ科学研究科（健康・スポーツ科学専攻）
- 生活環境学研究科（食物栄養学専攻、生活環境学専攻）
- 建築学研究科（建築学専攻、景観建築学専攻）2020年4月開設予定（届出中）
- 薬学研究科（薬学専攻、薬科学専攻）
- 看護学研究科（看護学専攻）



# 武庫川女子大学





50年のご愛顧に感謝

これからも地域と共に！

# 中兵庫信用金庫

理事長 足立厚郎

本店・丹波本部      丹波市氷上町成松226-1  
TEL                      (0795) 82-8850(代)

三田本部              三田市けやき台1-4-3  
TEL                      (079) 569-7150(代)

ゆめ  
希望と



うるおいのある

まちづくり

 JA丹波ひかみ

代表理事組合長 大 畠 良 樹

〒669-3461 兵庫県丹波市氷上町市辺 440

TEL:0795-82-0170 FAX:0795-82-3658

URL: <https://www.ja-tanbahikami.or.jp/>

# 敬 愛 会 人 法 療 医

理事長 大塚 久喜

本部 〒669-1333  
兵庫県三田市下内神525-1(三田高原病院内)  
TEL(079)567-5107

救急病院	介護老人保健施設
<b>大塚病院</b>	<b>ひかみシルバーステイ</b>
〒669-3641 兵庫県丹波市氷上町絹山513	〒669-3641 兵庫県丹波市氷上町絹山523
医療療養病床	医療療養病床
<b>三田高原病院</b>	<b>三田温泉病院</b>
〒669-1333 兵庫県三田市下内神525-1	〒669-1353 兵庫県三田市東山897-2
介護老人保健施設	介護老人保健施設
<b>三田温泉シルバーステイ</b>	<b>神戸ポートピアステイ</b>
〒669-1353 兵庫県三田市東山897-1	〒650-0046 兵庫県神戸市中央区港島中町5-2-3
介護老人保健施設	療養型医療施設
<b>豊岡シルバーステイ</b>	<b>西宮敬愛会病院</b>
〒668-0065 兵庫県豊岡市戸牧1132番地2	〒663-8203 兵庫県西宮市深津町7-5



医療法人 豊 濟 会

# 小 曾 根 病 院

許可病床数 **557** 床

## 介護老人保健施設 やすらぎ

定員数 **84** 床

大阪府豊中市豊南町東2丁目6番4号 06-6332-0135

理事長 中 川 泰 洋

理事 芦 田 昇 治

理事 田 晴 行

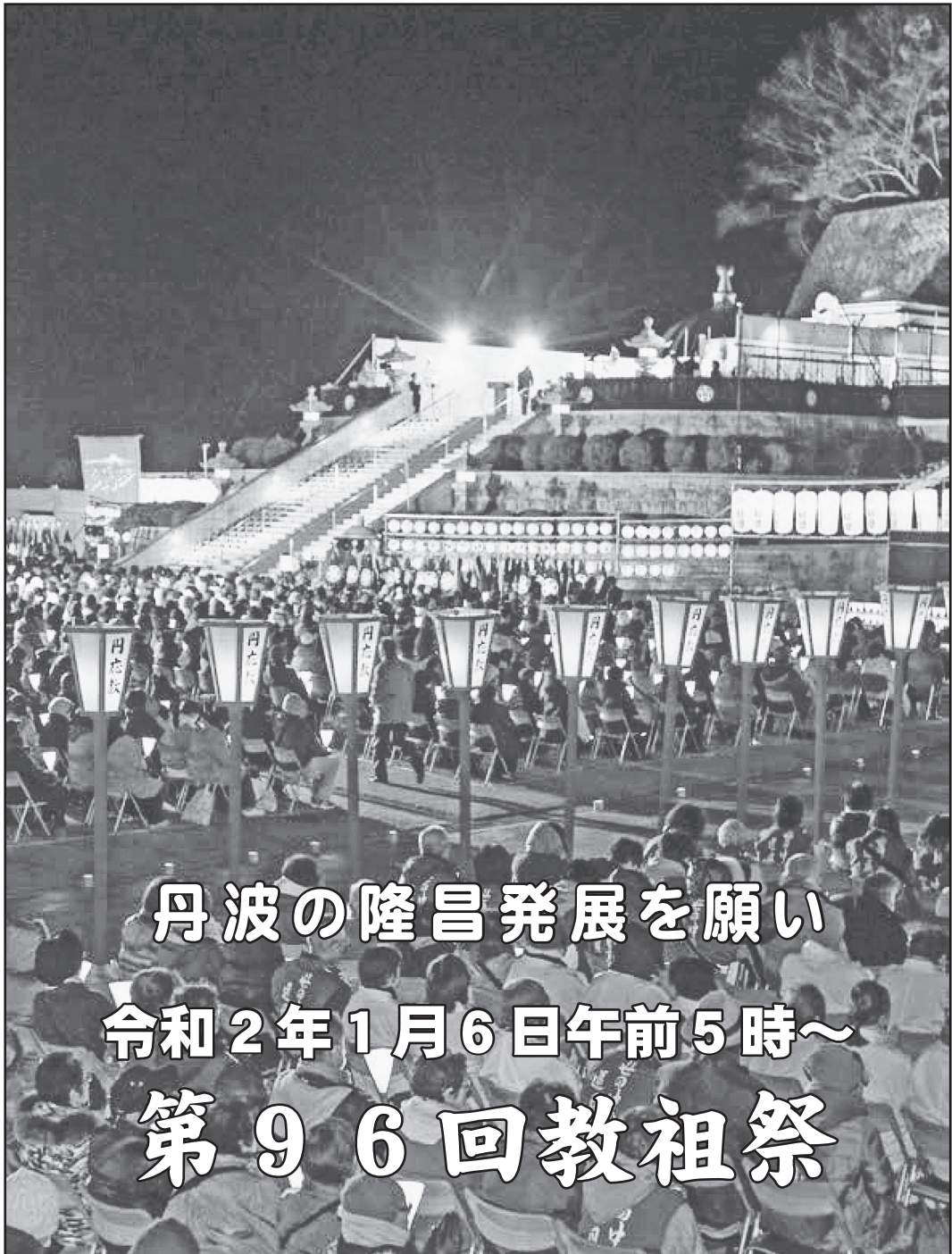
理事 遊 佐 裕 子

理事 石 井 笑 子

院長 西 元 善 幸

老健施設長 中 村 幹 男





丹波の隆昌発展を願い  
令和2年1月6日午前5時～  
第96回教祖祭

えん のう きょう  
**円 応 教**  
教主 深田 充啓

〒669-3142  
兵庫県丹波市山南町村森1-1  
TEL. 0795-77-0430  
ホームページ / [www.ennokyo.jp](http://www.ennokyo.jp)

自然とのふれあいを大切に、大地からの贈り物

**EARTH MATTERS**®

アースマターズ



プリザーブド & ドライフラワー

株式会社 **大地農園**

〒669-3154 兵庫県丹波市山南町工業団地内  
TEL. (0795) 77-2311 FAX. (0795) 77-2318

<http://www.ohchi-n.co.jp/>



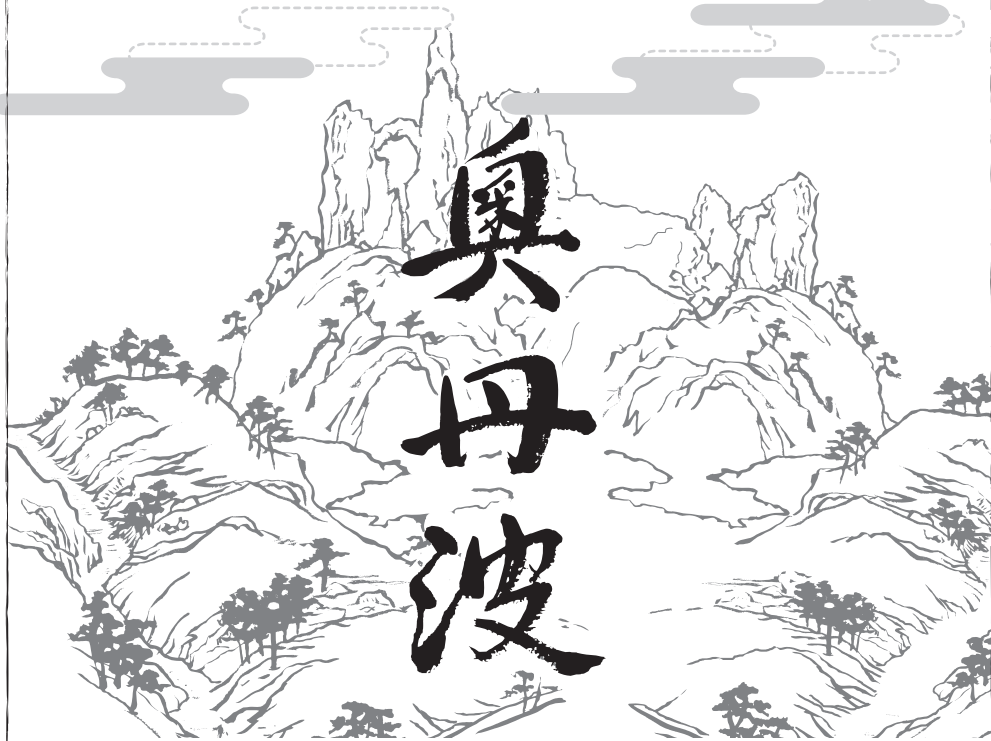
facebook

## 奥丹波蔵元 山名酒造

当家は元々源氏の総大将、頼朝に付き従った関東武士で、室町時代に応仁の乱で京の都を騒がせた山名宗全の血筋。その後、一族内の争いを逃れて領地を離れ、春日町の興禅寺付近で船川姓に変えて潜んでいたが、一七一六年（享保元年）に現在の市島町上田の地に移り、元の山名姓に戻したのが遠祖の始まりと伝わります。

蔵にある古文書のひとつに、天皇が即位した大嘗祭に奉納米を献上し、宮中から賜った「宝船」を描いたものがあります。カミダ（上田）は神田の呼称が転じたとも言われ、このように稲作に恵まれた環境のもと代々酒造りを生業にして十一代目、平成二十八年で創業三百年となりました。

江戸時代までは「千歳」、明治維新になり「萬（万）歳」、そして平成に入って「奥丹波」と酒銘を変えて仕込み続けて参りました。



[www.okutamba.co.jp](http://www.okutamba.co.jp)



# 山林をクリエイティブに

一般建築用材・内外装材製造販売  
山林再生事業/住宅用地分譲販売



地域の山を守りながら、未来に残したい  
くらしの景色を守る木づくりを進めております。

木の事なら住宅や店舗から神社仏閣まで  
まるごとお任せください。

〒669-3821 丹波市青垣町桧倉 323-3  
TEL:0795-87-5216 FAX:0795-87-5446

<http://www.mokuei.co.jp> 





富士山のバナジウム天然水  
(富士山の銘水)

京都ナチュラルミネラル天然水  
(京都丹波の銘水)

大分のゲルマニウム天然水  
(大分天領の銘水)

島根金城の華アルカリイオン天然水  
モンドセレクション金賞



採水地のある富士山が世界遺産登録



**丹波より全国へ展開中!**

**全国製造総発売元**

**株式会社 オーケンウォーター**

よ い み ず  
TEL0795-70-4132 ☎0120-041-999

詳しくは

お家のご売却はハウズドゥ！  
にお任せください。

- 高価買取
- 広告無料
- 相談無料
- 地域密着
- 秘密厳守

あなたの家。



買取り  
不動産

- マンション
- 一戸建て
- 土地
- 収益物件



※ハウズドゥは、不動産売買仲介専門フランチャイズで  
店舗数全国第一位です。ビジネスチャンス！平成20年8月22日発行  
2018年10月号(No.7)2018年度FC加盟店舗数ランキングTOP250より。

即価格提示  
致します!!

※一部除外エリア、除外物件もあります

売却物件大募集

ハウズドゥ水谷一之介キャラクター  
古田 敦也氏(元プロ野球選手)

ラジオ&テレビCM  
放送中!!  
housedo.com/

HouseDO

☎ 0120-683-700

全国ネットワーク606店舗  
(オープン準備中含む) 2019年9月末現在

仲介  
水曜定休

兵庫県知事(1)第750182号 (公社)全国宅地建物取引業保証協会会員 (社)兵庫県宅地建物取引業協会会員 (公社)近畿地区不動産公正取引協議会加盟

ハウズドゥ! 株式会社グリーンライフコーポレーション  
丹波店 〒669-4322 丹波市市島町上田503-1



# 不動産のことなら 何でもお気軽に!

 土地と住まいの相談室  
**オフィス キムラ** 株式会社

● <http://www.office-kimura.co.jp> ● E-mail [kimura@lily.ocn.ne.jp](mailto:kimura@lily.ocn.ne.jp)

● 本 店 ●

〒669-3465  
兵庫県丹波市氷上町横田136番地5  
TEL (0795) 80-1500  
FAX (0795) 80-1501

● *エイガル* NW丹波店 ●

〒669-3465  
兵庫県丹波市氷上町横田136番地5  
TEL (0795) 82-1550  
FAX (0795) 82-6700

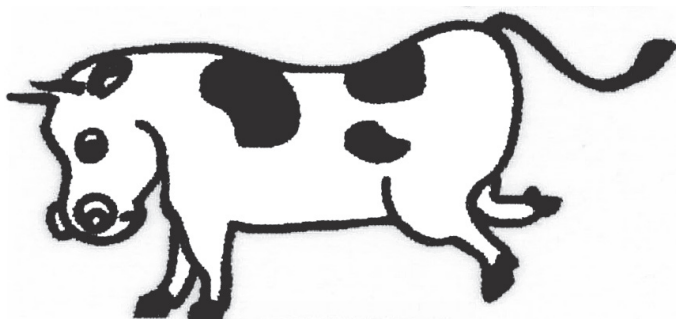
● 篠 山 店 ●

〒669-2205  
兵庫県篠山市網掛395番地1  
TEL (079) 590-1050  
FAX (079) 590-1006



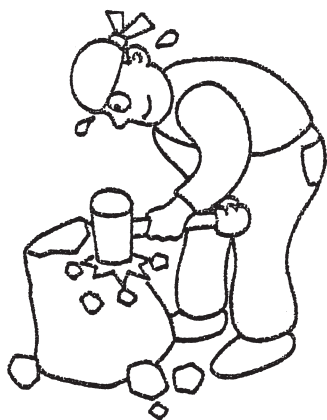
# 富田畜産

代表 富田信孝



〒669-3603 兵庫県丹波市氷上町西中 44-1  
TEL(0795)82-1304  
FAX(0795)82-1295





あなたの町の  
「石屋さん」…  
そんな石屋を  
めざしていきます!!

石の事なら何でもお気軽にご相談ください。

墓石・霊園・建築石材・造園石材

# (株) 丹波総合石材

代表取締役 堀 公 二

い し や は こ こ よ

 **0120-1480-54**

工場・事務所 TEL0795-72-3032

FAX0795-72-4343

★弊社ホームページは   で!



丹波  
k i s a k u

k i s a k u

ご予算に応じます。

丹波市柏原町柏原77-1(柏原駅前)

電話 0795-72-1044

<http://www.tanba-kisaku.jp>

大和

氷上町石生水分札

TEL(0795)8216010  
FAX(0795)8216630



# たんば黎明館

## ル・クロ丹波邸

(お箸で食べるフランス料理)

### 各種宴会ご案内

同窓会・歓送迎会・各種お祝い

4名～60名様〈1階個室、2階宴会場完備〉  
送迎付きプランやお客様のご予算に応じてご相談承ります

#### 基本プラン(基本2時間)

★コース・テーブルビュッフェ・ビュッフェで提供出来ます。

Aプラン…お一人様 **6,000円**

前菜、お魚料理、お肉料理、デザート、コーヒー、パン

Bプラン…お一人様 **7,800円**

アミューズ、冷前菜、温前菜、お魚料理、お肉料理、デザート、コーヒー、パン

Cプラン…お一人様 **10,000円**

旬の高級食材を使ったシェフお勧め特別フルコース

\*全てのプランにフリードリンク(ビール、ノンアルコールビール、ワイン(赤・白)・ソフトドリンク)が含まれます。

### ル・クロ丹波邸 コースメニュー

#### ●ランチメニュー

・フティコース	1,980円
(土日、祝日 アミューズ付)	2,480円
・ル・クロコース	3,000円
・タンバコース	3,700円
・シェフスペシャル	5,300円

アラカルト(単品)  
430円～

#### ●ディナーメニュー

・ル・クロコース	5,500円
・ピヤベースコース	4,500円
・シェフスペシャル	7,200円

ドリンク  
590円～

※アミューズ(お付きだし)代として  
600円別途頂きます。

●お祝い事など気軽にお問い合わせ下さい。スタッフ一同でお祝いさせていただきます。



ル・クロ丹波邸

Le Clos

〒669-3309

丹波市柏原町柏原688-3

#### ●ランチ

11:30～15:00(L.O.14:00)

#### ●ディナー

17:30～22:30(L.O.21:30)

ル・クロ丹波邸では  
結婚式も出来ます

TEL/FAX0795-73-0096

休 水曜日〔祝日の場合は営業〕

2F タンバール(ダイニングカフェ) \ 平日限定ランチバイキング開催中/  
■ランチバイキング 1,000円 お料理12種、デザート、コーヒー、紅茶

※価格はすべて税込み



# JXTGエネルギー株式会社

## EMG

# 有田産業株式会社

代表取締役 **有田 秀雄**

〒553-0002 大阪市福島区鷺洲3丁目1-38

TEL (06) 6451-1649 (代表)

FAX (06) 6451-0580



Mobil



有限会社 エス・ディー

みなさまの



# 信頼感 と 顔の見える 安心感

生命保険

終身保険

定期保険

個人年金保険

医療保険

がん保険

火災保険



自動車保険



けがの保険



賠償責任

など

損害保険・生命保険は  
エス・ディーにご用命ください

当社は関丹波市郷友会の  
青少年健全育成に協力しています。

各種保険の内容や  
事故対応について  
何なりとご相談下さい！



東京海上日動火災保険株式会社 損害保険シャパン日本興亜株式会社 代理店

## 有限会社 エス・ディー 担当：嶋田

〒550-0013 大阪市西区新町2丁目15番地27号 TEL 06-6539-3229

# ザンキン B&G 株式会社



代表取締役社長

玉置克臣

取締役会長

田 晴 行

〒550-0013 大阪市西区新町2丁目15番27号

TEL (06) 6539-3281 FAX (06) 6539-1231

建設業者登録 国土交通大臣 第21287号  
一級建築士事務所登録 大阪府知事 第5916号  
宅地建物取引業者登録 大阪府知事 第41184号

---

建設事業部（ビルドB） 農芸事業部（グリーンハウスG）

- ・ 建築工事の設計及び施工請負
- ・ 不動産の売買及び仲介
- ・ 農業用施設の設計及び施工請負
- ・ 太陽光発電システムの設計及び施工請負

---

本 社・関東支店・東北出張所・沖縄出張所



# 丹波新聞

変わる時代

変わらない思い

230人の人文字で「令和」!

青垣町大名草自治会の運動会で、0歳〜90歳の参加した住民230人が新元号にちなんで人文字で「令和」を作り、上空から記念撮影。

(5月23日号より)

株式会社 丹波新聞社

〒669-3309 丹波市柏原町柏原201  
tel.0795-72-0530 fax.0795-72-1956

丹波新聞

検索



週2回(日・木)発行 1ヶ月1,255円(郵送料205円)



# 地域と共に ふるさと創生

丹波の心を伝える—



## 丹波素材を使った加工品と和洋菓子

『丹波伝心』、それは『温故知新』……古き丹波の食、食生活、食文化等をも顧みながら新しき時代の中に「丹波」を息づかせたい、そんな願いを込めています。



▲夢の里やながわ 本店

株式会社  
**やながわ**  
本社・茶工場 〒669-4124  
兵庫県丹波市春日町野上野209-1  
TEL 0795-74-0010 FAX 0795-74-2010

株式会社  
**やながわ**  
特産加工場 〒669-4124  
兵庫県丹波市春日町野上野889-1  
TEL 0795-74-0010 FAX 0795-74-2010

夢の里 **やながわ**  
本店 〒669-4124  
兵庫県丹波市春日町野上野920  
TEL 0795-74-0123 FAX 0795-74-2070

夢の里 **やながわ**  
福知山店 〒620-0045  
京都府福知山市駅前町343 和田ビル1階  
TEL 0773-22-2840 FAX 0773-22-2840

風丹  
土波  
東京春日店 〒113-0033  
東京都文京区本郷1丁目35-26  
ラフォーレ文京本郷ビル1階  
TEL 03-3868-5610

夢の里やながわ

検索



創業明治25年(1892年)

# 岡林寫真館

本店 丹波市柏原町柏原JR柏原駅前  
TEL 0795-72-0033 FAX 0795-72-1148

……一度ホームページをご覧ください……

www.okabayashi.co.jp/

岡林写真館

検索





# SHIN BUNGU KAN



おしゃれ文具・ギフト ▶【店舗直通】0795-72-1223  
万年筆・印鑑・ゴム印

OA機器・オフィス家具 ▶【営業部直通】0795-72-1117  
事務用品・文具通販

**TSP** 株式会社 土田商事 代表取締役 土田博幸  
〒669-3311 兵庫県丹波市柏原町母坪409-1 <https://www.tsp-group.jp>

## 心豊かな暮らしにご奉仕いたします

仏壇 仏具 位牌 宗教行事用具

創業大正8年

# 大仏堂

国道175号線と176号線の交差点すぐ

丹波市氷上町横田(コープこうべ柏原店様前)

お電話代無料

0120-2946-37 へお気軽にどうぞ。

FAX 0795-82-5427

## 兵庫県・京都府下18店舗展開中

### 作業服・作業用品専門店

オオツキはユニフォームから作業用品まで、働く職場をがっちりサポートする会社です。

ラジオ関西・FM“805 たんば”でCMソング放送中！

### 会員カード(ダルマカード)発行中!!

◎毎月9日・19日・29日はポイント2倍デー！

◎毎週水曜日レディースデー！（女性の方はポイント2倍）



株式会社

# オオツキ

兵庫県丹波市春日町新才518 TEL：0795-74-0179 FAX：0795-74-2833

<http://www.otsuki.ne.jp> e-mail [info@otsuki.ne.jp](mailto:info@otsuki.ne.jp)



医療法人社団

## 赤松 医院

内科・循環器科・消化器科(胃腸科)・小児科  
リハビリテーション科・漢方取扱い

理事長 赤松暉久

院長 赤松義樹

日本循環器学会循環器専門医  
日本内科学会認定内科医  
日本医師会認定・認定産業医  
日本救急医学会 ICLS 認定  
インストラクター・コースディレクター  
厚生労働省認定認知症サポート医

	月	火	水	木	金	土	日
予約検査 8:00~8:40	○	○	○	○	○	○	—
午前診療 8:40~13:00	○	○	○	○	○	○	—
往診・検診・検査 14:00~17:00	○	○	○	—	○	—	—
午後診療 17:00~19:00	○	○	○	—	○	—	—

## TEL (0795) 74-0080

丹波市春日町黒井478-4 <http://akamatsu-cl.jp>





介護付有料老人ホーム  
**さわやか神戸西館**  
 令和2年4月1日開所予定

設計・監理  
**清水一級建築設計事務所**  
 一級建築士 **清水昭景**

〒669-3131 兵庫県丹波市山南町谷川714-2  
 携 帯:090-3429-8097  
 TEL・FAX:0795-77-0369  
 E-mail shimizusekkei0369@athena.ocn.ne.jp

本格会席・創作料理の店



**丹南茶寮**

春は山菜、夏は川魚、

秋は栗・松茸、冬は山の芋・・・

丹波の四季をお楽しみ下さい

**tannansaryou.com**

ミニ同窓会・ご商談にお気軽にどうぞ

和食膳所 **丹南茶寮**

〒669-2214 兵庫県丹波篠山市味間新92-4

**☎(079)590-1020**

【駐 車 場】  
 有り(無料) -7台まで

【営業時間】定休日翌日は17時より  
 お昼の御食事  
 11:30~13:30  
 夕晩の御食事  
 17:00~22:00

【定 休 日】水曜  
 ※第4木曜日(変更になる場合有)

代 表 鷺 尾 英 紀





# たんばコミュニティエフエム

市民のための！ 市民による……  
放送局です！

## FM80.5MHz

丹波市内で毎日、朝6時から夜10時まで  
放送中です。



FM80.5MHz .....

# 805たんば

特定非営利活動法人 たんばコミュニティネットワーク

〒669-3461 丹波市氷上町市辺 683

Tel.0795-82-1881 Fax.0795-78-9832 Mail:mail@tanba.info

●インターネットラジオ  
(サイマル放送)

または

●スマートフォン  
(無料アプリ)

でも聴けます。

皆様のご支援やご参加を  
お願いいたします。

詳しくはホームページ

<http://805.tanba.info>

をご覧ください。

丹波布と親しみ 工芸と暮らす



# K A B U R A

工 芸 の 店 か ぶ ら

丹波布 かぶら

検索

住 所 ■ 〒669-3309 兵庫県丹波市柏原町柏原46

T E L ■ 0795-71-1683

営業日 ■ 金曜、土曜、日曜、月曜

時 間 ■ 10:00~15:30

Facebook / Instagram KABURA

[kabura.tambanuno@gmail.com](mailto:kabura.tambanuno@gmail.com)



会誌「山ざる」50号・年1回発行

柏原町・谷書店にてお求めいただけます。  
1冊 ¥500円

# 関東氷上郷友会

心と心のおつきあい

ふるさと丹波と関東地域の丹波出身者の心をつなぐ

会誌「やまざる」にご投稿お待ちしております

お問い合わせは事務局迄

最近関東以北の地域に越された方、ご連絡下さい。

事務局

〒351-0014 埼玉県朝霞市膝折町 4-4-30

TEL 048-460-1601 FAX 048-460-2397

ホームページ <http://pcc-taiyo.co.jp/hikami>

## 本誌広告を募集します

次号(第5号)は、2020年10月末に発行を予定しています。

さらに内容を充実させる計画です。

本誌は皆様方のご厚志にて発行費用を賄っております。何卒ご理解を頂いて、協賛下さいますよう、よろしくお願い申し上げます。

広告費：全ページ 15,000円(税込)

半ページ 8,000円(税込)

申し込み先：会報委員長 山口直樹(090-8936-8471)

## 「賛助金」ご協力のお願い

関西丹波市郷友会では丹波市の青少年の健全な育成のために文化、スポーツ、国際交流、ボランティア活動など様々な分野に支援を行っています。これらの支援活動に必要な資金は皆様方からの賛助金によって賄っています。

今後、支援活動をより一層充実させるために、また1年でも長く継続していくために、下記要領で賛助金のご協力をお願いしています。

つきましては何とぞ趣旨をご賢察いただき、賛助金の振込にご協力、ご支援いただきますようお願い申し上げます。

### 記

募集要項	法人様 1口 10,000円(3口以上) 個人様 1口 10,000円(1口以上)
振込先	三菱UFJ銀行 <small>たいしょうばし</small> 大正橋支店(店番789) 普通預金 口座番号 0353273 口座名 <small>かんさいたんばしごうゆうかい</small> 関西丹波市郷友会 <small>かいちょう</small> 会長 <small>ありたひでお</small> 有田秀雄

賛助金と同じ趣旨で、よりご協力をいただきやすい形として下記要領で寄付金でもご協力をいただけます。

### 記

募集要項	1口 1,000円以上(何口でも結構です)
郵便局から払込	振替口座記号番号 00970-2-95859 加入者名 関西丹波市郷友会
銀行から振込	銀行名 ゆうちょ銀行(金融機関コード9900) 店名 <small>ゼロキョウキョウ</small> ○九九店(店番099) 預金種別 当座預金 口座番号 0095859 口座名 関西丹波市郷友会
問い合わせ先	関西丹波市郷友会事務局 〒550-0013 大阪市西区新町2丁目15番27号 サンキン株式会社内 TEL 06-6539-3201 Fax 06-6539-3231 担当 総務部 横井

# 関西丹波市郷友会に入会しませんか

関西丹波市郷友会は、旧氷上郡出身者により明治32年(1899)年に創設され、同郷の人々の親睦と郷土の青少年の育成のために、長年に渡って様々な活動を行ってきました。

しかしながら、時代の変遷とともに、会員の高齢化や会員数の減少など本会を取り巻く状況は大きく変わってきています。この時期に当たり役員会では、伝統に甘んじて惰性的に活動を進めるのではなく、丹波市の将来に真に貢献できる方向で活性化を図る必要があるとの認識のもと、平成28年度より新たな試みを始めました。

今回4号目となった会報誌「たんば」の発刊、年次総会の地元での開催、さらには創設120周年記念「丹波すくすく大賞」の募集・表彰など様々な方策を企画しました。出身者だけでなく、地元在住の方々にも大いに関わっていただき情報交換したり議論し合うことにより、人口減少などの困難に直面する丹波市の課題解決に向けて、いささかでもお役に立てる会に発展できればと、願っております。

どうか皆様にも加わっていただき、お力添えをくださいますよう、よろしく申し上げます。丹波市出身でなくても、何らかのご縁があって丹波に関心を持たれる方ならどなたでも歓迎いたします。

年会費3,000円を納入いただきましたら、年次総会のご案内、会報「たんば」の送付ほか、本会が催すイベントのお知らせ等々をいたします。

次ページの入会申込書にお名前、住所、電話番号、年齢などを明記してお申し込みください。

## 寄稿を歓迎します 本誌を郵送料ご負担で送ります。

本誌は年1回発行予定です。次号への寄稿を歓迎いたします。

ご希望の方は会報委員長 山口直樹宛て(0795-82-1651)にご連絡ください。

また本誌(無料)をご希望の方は、下記の事務局(丹波市以外に在住の方)または丹波新聞社(丹波市在住の方)まで郵送料300円(切手可)を添えてお申し込み下さい。

## たんば 第4号

2019年11月1日発行

発行 関西丹波市郷友会(会長 有田秀雄)  
〒550-0013 大阪市西区新町2-15-27  
サンキン株式会社 内  
Tel.06(6539)3201  
Fax.06(6539)3231

印刷 株式会社 丹波新聞社 Tel.0795(72)0530



年 月 日

## 関西丹波市郷友会入会申込書

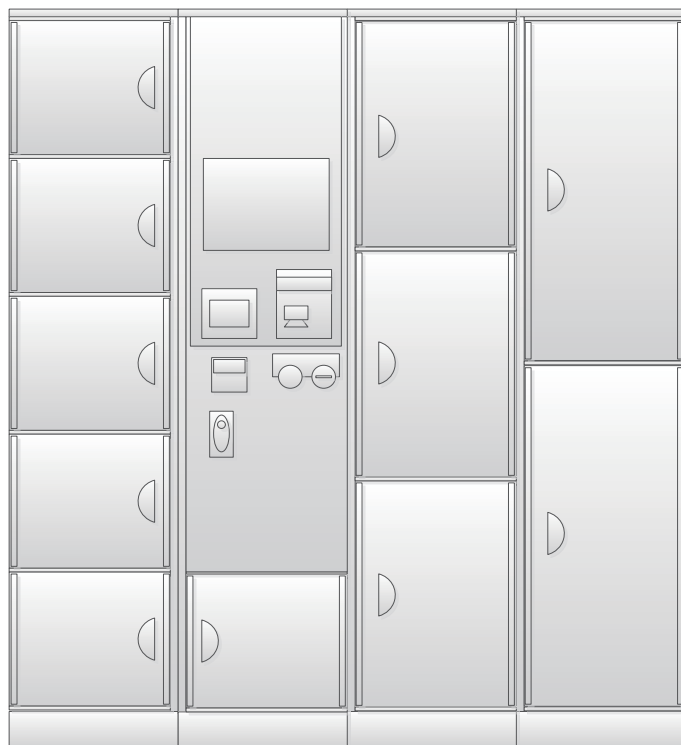
ふりがな	
氏 名	
〒 番 号	
現 住 所	
電 話 番 号	
年 齢	歳
出 身 地 又は縁故地	丹波市 町
紹介者氏名 (会員氏名)	
紹介者がいない場合は、以下にお書き下さい	
丹波市との 関わり	
勤 務 先	会社名
	住所・電話

上記の様式をコピーして、FAX または郵送して下さい。  
届き次第、入金振込票をお送りします。会費は年3,000円。入会費は不要です。

### 関西丹波市郷友会 事務局

〒550-0013 大阪市西区新町2-15-27 サンキン株式会社内  
電話：06-6539-3201 FAX：06-6539-3231

# お客様の手荷物保管 スペースを創造して半世紀。



since

# 1966 → Next

コインロッカーの販売・オペレート

**丸十ロッカー株式会社**

代表取締役 田 恭子

〒664-0858 兵庫県伊丹市西台 4-1-26

TEL:072-772-2654 FAX:072-770-5553

URL:<http://www.marujulocker.co.jp>

契約先 47 社

設置ロケーション数 555カ所

設置台数 4,600 台

設置口数 16,200 口

2019 年現在



# ガンキン株式会社



真に役立つ存在であり続けたい

代表取締役社長 田 貴 晴

代表取締役副社長 水 口 純 二

取締役会長 田 晴 重

【当社製品】

- 冷間引抜鋼管
- 家庭用物置
- 物流パレット
- 立体駐車装置
- 車止め